

H27-B-4 49.43~57.74m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書生状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事		上端深度	下端深度	記事	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
141	49.43	49.43	白色の鉱物脈。風化しやや軟質。幅4mm、角度47°	49.43	49.43	白色~黄褐色の鉱物脈。風化しやや軟質。幅2~4mm、角度47°	-コアに合わせて色調及び真傾を変更した	49.43	49.43	49.43m:47°で幅2~4mmの白~黄褐色の鉱物脈を挟む。風化しやや軟質である。	-		
142	50.09	50.09	70°の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出	50.09	50.09	15~70°の湾曲した開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出	-割れ目の傾斜及び形状について追記した	50.09	50.09	50.09m:15~70°の湾曲した開口割れ目に幅5mmのマンガンを挟む。	-		
143	50.39	50.60	劣化しコア全体が軟質。表面は砂状となる所がある。軟質・脆弱。	50.39	50.60	劣化しコア全体が軟質。表面は砂状となる所がある。軟質・脆弱。	-劣化しコア全体が軟質」と同意の記事のため削除した	50.39	50.60	50.39~50.60m:劣化し全体が軟質で、表面は砂状となる所がある。	-		
144	50.39	50.60	(岩級区分欄)D	50.39	50.60	(岩級区分欄)CL	-区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	50.39	50.60	(岩級区分欄)CLに含める	-		
145	50.58	50.92	白色細脈が不規則に入る。	50.58	50.92	白色粘土細脈が不規則に入る。	-細脈について追記した	50.58	50.92	50.58~50.92m:白色粘土細脈が不規則に分布する。	-		
146	51.20	51.43	微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って深い褐色脈(方長石)が見られる所が多い。	51.20	51.43	微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って幅1mm以下でぶい褐色粘土が見られる所が多い。	-割れ目の方長石は1条しか見られず、それより粘土の挟在が目立つため挟在物についての記載を変更した	51.20	51.43	51.20~51.43m:微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目沿いに幅1mm以下でぶい褐色粘土を挟む所が多い。	-		
147	51.66	51.97	微細な割れ目が非常に卓越(30~50°)。コアは軟質となる。	-	-	-	-	51.66	51.97	51.66~51.97m:30~50°の微細な割れ目が非常に卓越し軟質となる。	-		
148	51.90	51.90	45°の割れ目沿いに実質した白色鉱物脈。厚さ4mm。褐色汚染明確。	52.90	52.90	40°の割れ目沿いに実質した黄褐色粘土脈。厚さ4mm。褐色汚染明確	-傾記の修正(51.90⇒52.90、褐色⇒褐色) -コアに合わせて挟在物を変更した	52.90	52.90	52.90m:45°で幅4mmの実質した黄褐色粘土脈を挟む。褐色汚染が明確である。	-		
149	-	-	-	52.11	53.35	傾斜20°以下の微細な割れ目が1~3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	-低角度の微細な割れ目が発達することは範囲と異なる状況であるため追記した	52.11	53.35	52.11~53.35m:傾斜20°以下の微細な割れ目が1~3cm程度の間隔で発達する。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	-		
150	52.48	52.44	微細な割れ目が密集。コアは局所的に糜状となる。上端側の割れ目に厚さ4mmのマンガン挟在する。	52.38	52.44	微細な割れ目が密集。コアは局所的に糜状となる。上端側の割れ目に厚さ4mmのマンガン挟在する。	-傾記の修正(52.48⇒52.38) -上端側が必ずしも上層とは限らないため上端に変更した	52.38	52.44	52.38~52.44m:微細な割れ目が密集し、局所的に糜状となる。上端側の割れ目に幅4mmのマンガンを挟む。	-		
151	52.44	53.35	低角度の割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	52.44	53.35	低角度の割れ目が卓越。割れ目に沿った褐色汚染は軽微である。	-	-	-	-	-		
152	53.54	53.59	割れ目沿いの劣化が明確で、コアの一部は細礫~砂状となる。	-	-	-	-	53.54	53.59	53.54~53.59m:割れ目沿いの劣化が明確で、一部は細礫~砂状となる。	-		
153	53.74	53.74	高角度の割れ目に沿って劣化し、一部糜礫状となる。	53.84	53.84	高角度の割れ目に沿って劣化し、一部糜礫状となる。	-傾記の修正(53.74⇒53.84)	53.84	53.84	53.84m:高角度の割れ目に沿って劣化し、一部糜礫状となる。	-		
154	54.66	54.73	50~60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し、一部糜礫状となる。褐色汚染も顕著。	54.66	54.73	50~60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し、一部糜礫状となる。褐色汚染も顕著。	-傾記の修正(割れ目⇒割れ目)	54.66	54.73	54.66~54.73m:50~60°のほぼ平行な割れ目に沿って劣化し、一部糜礫状となる。褐色汚染も顕著に見られる。	-		
155	54.96	55.55	低角度の割れ目が非常に卓越する	54.96	55.55	傾斜20°以下の割れ目が非常に卓越する	-低角度を具体的な数値に変更した	54.96	55.55	54.96~55.55m:傾斜20°以下の割れ目が非常に卓越する。	-		
156	55.56	55.56	50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が挟在する。褐色汚染も明確である。	55.56	55.56	50°の割れ目間に厚さ8mmで黄褐色の砂が挟在する。褐色汚染も明確である。	-色調を追記した	55.56	55.56	55.56m:50°の割れ目間に幅8mmで黄褐色の砂を挟む。褐色汚染も明確である。	-		
157	56.06	56.41	(岩級区分欄)CM	56.06	56.41	(岩級区分欄)CL	-区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	56.06	56.41	(岩級区分欄)CLに含める	-		
158	56.41	57.09	(割れ目状態欄)○ランク	56.41	57.09	(割れ目状態欄)○ランク	-挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクを○ランクに変更した	56.41	57.09	(割れ目状態欄)○ランク	-		
159	56.45	56.61	高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。	56.45	56.61	高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。	-表裏の適正化(交叉⇒交叉)	56.45	56.61	56.45~56.61m:高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。	-		
160	56.74	56.74	71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm挟在。	-	-	-	-	56.74	56.74	56.74m:71°で幅3mmの褐色粘土を挟む。	-		
161	56.88	56.88	約90°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越。一部糜礫コアとなる。	-	-	-	-	56.88	56.88	56.88~56.88m:約90°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越し、一部糜礫状となる。	-		
162	57.24	58.50	この間、多くの割れ目に褐色汚染が見られる。	-	-	-	-	57.24	58.50	57.24~58.50m:多くの割れ目に褐色汚染が見られる。	-		
163	57.41	57.41	(岩級区分欄)CM	57.41	57.54	(岩級区分欄)CL	-傾記の修正(下端深度57.41⇒57.54) -区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	57.41	57.54	(岩級区分欄)CLに含める	-		
164	57.54	57.74	割れ目沿いに劣化。軟質・脆弱。	57.54	57.74	傾斜50~66°の割れ目沿いに劣化。軟質・脆弱。幅1~3mmの黄褐色粘土を挟む。	-傾斜及び割れ目の挟在物について追記した	57.54	57.74	57.54~57.74m:傾斜50~66°の割れ目沿いに劣化し、軟質である。幅1~3mmの黄褐色粘土を挟む。	-		

H27-B-4 57.91~64.30m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書仕状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事		上端深度	下端深度	記事	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか?	追加変更した情報が正しく転記されているか?										
165	57.91	58.71	(割れ目状態欄)Cランク	(割れ目状態欄)Bランク	57.91	58.71	(割れ目状態欄)Bランク	-採在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した	57.91	58.71	(割れ目状態欄)Cランク	-	
166	57.91	58.06	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	57.91	58.06	(岩級区分欄)CM	-上記の変更に伴い、岩級区分を変更した	57.91	58.06	(岩級区分欄)CM	-	
167	58.06	58.71	砂状の採在物が見られる割れ目が多いが、岩質は硬い。	砂状の採在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。	58.06	58.71	砂状の採在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。	-採在物を伴う割れ目は少ないため削除した	58.06	58.71	58.06~58.71m:岩質は硬い。	-	
168	58.71	59.02	(岩級区分欄)CL	(岩級区分欄)CM	58.71	59.02	(岩級区分欄)CM	-区間長が50cm未満のため、層面の岩級に含めた	58.71	59.02	(岩級区分欄)CMに含める	-	
169	59.02	59.34	層在物ならのを除き、割れ目のない柱状コア、岩質も硬い。	-	-	-	-	-	59.02	59.34	59.02~59.34m:層在割れ目を除き、割れ目のない柱状コアで、岩質も硬い。	-	
170	59.02	59.34	(岩級区分欄)CH	(岩級区分欄)CM	59.02	59.34	(岩級区分欄)CM	-区間長が50cm未満のため、層面の岩級に含めた	59.02	59.34	(岩級区分欄)CMに含める	-	
171	60.07	60.45	微細な割れ目が卓越し、コアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹凸が多く、ザラつく。	微細な割れ目が卓越し、変質によりコアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹凸が多く、ザラつく。灰白~にぶい橙色の粘土が網目状に分布している。	60.07	60.45	微細な割れ目が卓越し、変質によりコアも軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹凸が多く、ザラつく。灰白~にぶい橙色の粘土が網目状に分布している。	-軟質化の原因について追記した -網目状の粘土は層面と異なる状況であるため追記した	60.07	60.45	60.07~60.45m:微細な割れ目が卓越し、変質により軟質となる。割れ目沿いにコア表面は凹凸が多く、ザラつく。灰白~にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。	-	
172	60.45	60.82	(実質欄)3ランク	(実質欄)2ランク	60.45	60.82	(実質欄)2ランク	-上位に比べて変質の程度が弱い実質のランクを2ランクに変更した	60.45	60.82	(実質欄)2ランク	-	
173	60.45	60.82	低~中角度の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目に沿った褐色汚染が顕著。	30~60°の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目に沿った褐色汚染が顕著。	60.45	60.82	30~60°の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目に沿った褐色汚染が顕著。	-低~中角度を具体的な数値に変更した	60.45	60.82	60.45~60.82m:30~60°の平行に近い割れ目が卓越し、割れ目沿いに褐色汚染が顕著である。	-	
174	60.82	61.72	微細な割れ目が卓越し、コアも軟質で脆弱。特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂塵状を呈する。	微細な割れ目が卓越し、にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で脆弱。特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂塵状を呈する。	60.82	61.72	微細な割れ目が卓越し、にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で脆弱。特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂塵状を呈する。	-網目状の粘土は層面と異なる状況であるため追記した -砂塵状を呈することは層面と異なる状況であるため追記した	60.82	61.72	60.82~61.72m:微細な割れ目が卓越し、にぶい橙色の粘土が網目状に分布する。コアも軟質で、特に61.40~61.58m間は劣化が顕著で砂塵状を呈する。	-	
175	61.72	62.36	コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。コアは軟質となり、表面がザラつく。	コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。コアは軟質となり、表面がザラつく。	61.72	62.36	コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。コアは軟質となり、表面がザラつく。	-割れ目沿いの褐色汚染は層面と異なる状況であるため追記した -表面がザラつくの記載は、深度が不明で、かつ、コアが硬くなることと矛盾しているため削除した	61.72	62.36	61.72~62.36m:コアは若干硬くなるが、不規則で微細な割れ目が非常に卓越する。割れ目沿いの褐色汚染が見られる。	-	
176	61.72	62.36	(割れ目状態欄)Cランク (実質欄)3ランク	(割れ目状態欄)Bランク (実質欄)2ランク	61.72	62.36	(割れ目状態欄)Bランク (実質欄)2ランク	-採在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した -上位に比べて変質の程度が弱い実質のランクを2ランクに変更した	61.72	62.36	(割れ目状態欄)Bランク (実質欄)2ランク	-	
177	62.36	62.25	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優位的な不規則で微細な割れ目が卓越する。	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優位的な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	62.36	62.25	コアは軟質となり、表面がザラつく。低角度がやや優位的な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	-記載の修正(優性→優勢) -粘土の採在について追記した	62.36	62.25	62.36~62.25m:コアは軟質で表面がザラつく。低角度がやや優位的な不規則で微細な割れ目が卓越する。割れ目沿いに灰白色粘土を伴う。	-	
178	-	-	-	長石の白濁化が目立つ	62.40	62.52	長石の白濁化が目立つ	-層面と異なる状況であるため追記した	62.40	62.52	62.40~62.52m:長石の白濁化が目立つ。	-	
179	62.75	62.75	断断性の割れ目(管理)。幅10mmや緑色味を帯び、褐色汚染が顕著。	傾斜65°のせん断性の割れ目(管理)。幅10mmでやや緑色味を帯び、褐色汚染が顕著。割れ目に幅1mm以下の灰白色粘土を断断的に挟み、連続性に乏しい。同系統の割れ目は白色顔料を横断している。割れ目周辺の空間には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	62.75	62.75	傾斜65°のせん断性の割れ目(管理)。幅10mmでやや緑色味を帯び、褐色汚染が顕著。割れ目に幅1mm以下の灰白色粘土を断断的に挟み、連続性に乏しい。同系統の割れ目は白色顔料を横断している。割れ目周辺の空間には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-傾斜について追記した -断面の線一(せん断) -取割の追記 -採在物の連続性、周切岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した -追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した	62.75	62.75	62.75m:傾斜65°で幅10mmがやや緑色味を帯び、褐色汚染が顕著である。割れ目に幅1mm以下の灰白色粘土を断断的に挟み、連続性に乏しい。断面組織の採在性を断断的に確認する。割れ目周辺の空間には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	
180	63.00	63.26	劣化し全体に軟質、脆弱。割れ目に砂やシルトが生じている。	-	-	-	-	-	63.00	63.26	63.00~63.26m:劣化し全体に軟質である。割れ目に砂やシルトを挟む。	-	
181	-	-	-	上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	63.26	63.62	上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	-層面に比べて変質の程度が異なることについて追記した -割れ目の採在物が目立つため追記した	63.26	63.62	63.26~63.62m:上下位に比べて変質の程度は弱い。割れ目に緑灰色や黄褐色の粘土を挟む。	-	
182	63.26	63.62	(実質欄)3ランク	(実質欄)2ランク	63.26	63.62	(実質欄)2ランク	-層面に比べて変質の程度が弱い実質のランクを2ランクに変更した	63.26	63.62	(実質欄)2ランク	-	
183	63.62	63.90	全体に軟質、脆弱。高甲状の割れ目には灰白色のシルトが生じている。	-	-	-	-	-	63.62	63.90	63.62~63.90m:全体に軟質で、高甲状の割れ目に灰白色シルトを挟む。	-	
184	63.62	63.90	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Dランク	63.62	63.90	(コアの硬さ欄)Dランク	-上位に比べて軟質化しているためコアの硬さのランクをDランクに変更した	63.62	63.90	(コアの硬さ欄)Dランク	-	
185	63.90	64.30	変質し軟質。割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。原岩組織が認められる。	強く変質し軟質。割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。原岩組織が認められる。	63.90	64.30	強く変質し軟質。割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。原岩組織が認められる。	-記載の修正(下端深度63.30⇒64.30) -粘土化が進んでいるため「強く」変質していることを追記した -硬幹部ではないことを示すために母岩の組織の有無について追記した	63.90	64.30	63.90~64.30m:強く変質し軟質で、割れ目は不鮮明となり、やや緑色味を帯びる。原岩組織は認められる。	-	
186	63.90	64.30	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Eランク	63.90	64.30	(コアの硬さ欄)Eランク	-記載の修正(下端深度63.30⇒64.30) -粘土化し軟質であるためコアの硬さのランクをEランクに変更した	63.90	64.30	(コアの硬さ欄)Eランク	-	

H27-B-4 64.30~67.75m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書仕状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点 (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点))
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
187	-	-	-	64.30	64.65	上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化汚染は見られない。	-	64.30	64.65	64.30~64.65m:上下位に比べて変質の程度は弱い。不規則な割れ目が発達している。酸化汚染は見られない。	-
188	64.30	64.65	(変質層)3ランク (岩級区分欄)GL	64.30	64.65	(変質層)2ランク (岩級区分欄)D	-	64.30	64.65	(変質層)2ランク (岩級区分欄)Dに含める	-
189	64.65	64.91	破砕帯	64.65	64.91	破砕帯 最新活動面は64.74m(64.80mの可能性あり)。	-	64.65	64.91	●64.65~64.91m:破砕帯 粘土混じり塊状部(H) 上端65°で直線的に連続。下端65°で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で岩片間に幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。上端には暗灰色粘土を幅3mmで挟む。また、64.74m及び64.80mに傾斜60°で幅1~3mmの灰~灰白色シルト(Hc-2)を挟む。全体にはふい黄褐色を呈する。	-
190	64.65	64.65	上端65°、粘土3mm	64.65	64.65	上端65°、やや軟質な暗灰色粘土を幅3mmで挟む。一部不連続。	-	64.65	64.65	-	-
191	-	-	-	64.74	64.74	傾斜60°、幅1mm以下の硬質な灰~灰白色シルト(Hc-2)を挟む。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	-	64.74	64.74	-	-
192	-	-	-	64.80	64.80	傾斜60°、幅1~3mmの硬質な灰~灰白色シルト(Hc-2)を挟む。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は不明。	-	64.80	64.80	-	-
193	64.91	64.91	下層65°(やや不鮮明)。これより上位硬状。上下層の間に剪断面2条あり。	64.91	64.91	下層65°(やや不鮮明)。これより上位(64.90~64.91m間)は硬状。上下層の間にせん断面2条あり。 全体に粘土混じり塊状部(H)でやや硬質。含まれる灰白色粘土は網目状に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。にふい黄褐色を呈する。	-	64.91	64.91	-	-
194	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Dランク	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Bランク	-	64.91	65.13	(コアの硬さ欄)Bランク	-
195	64.91	65.59	(変質層)3ランク	64.91	65.59	(変質層)2ランク	-	64.91	65.59	(変質層)2ランク	-
196	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Dランク	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Cランク	-	65.13	65.59	(コアの硬さ欄)Cランク	-
197	65.59	65.72	破砕される。110mm、砂~塊状。65.59m、65°、上層。65.72、62°、下層。部分的に灰白色粘土2~3mm。明瞭なガウツは無い。	65.59	65.72	破砕部。 幅110mm、粘土混じり砂~塊状。径2~30mmの岩片主体で一部砂状化する。H。灰色を呈する。 全体に軟質。含まれる組織は局所的に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。 65.59m、65°、上層。直線的に連続。 65.72m、62°、下層。不明瞭。局所的に灰白色粘土2~3mm。明瞭なガウツは粘土は無い。 最新活動面は65.65m(最も直線的で不連続ながら細粒部を伴う) 65.65m、傾斜65°、幅2~3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。	-	65.59	65.72	●65.59~65.72m:破砕部 粘土混じり砂~塊状(H) 上層65°で直線的に連続。下層62°で不明瞭。径2~30mmの岩片主体で、一部砂状化する。灰色を呈する。幅2~3mmの灰白色粘土を部分的に挟む。	-
198	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)cランク (変質層)3ランク (破砕区分欄)-	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)cランク (変質層)4ランク (破砕区分欄)H	-	65.59	65.72	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)cランク (変質層)4ランク (破砕区分欄)H	-
199	-	-	-	65.72	65.85	網目状に微細な割れ目が発達し、所々、灰白色粘土を伴う	-	65.72	65.85	-	-
200	-	66.30	割れ目が卓越し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	65.85	66.30	傾斜20~80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	-	65.85	66.30	65.85~66.30m:傾斜20~80°までの様々な角度の割れ目が分布し、やや脆弱であるが、褐色汚染は見られない。	-
201	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Dランク (変質層)3ランク	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Cランク (変質層)2ランク	-	65.85	66.99	(コアの硬さ欄)Cランク (変質層)2ランク	-
202	66.30	67.28	割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著である。	-	-	-	-	66.30	67.28	66.30~67.28m:割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著である。	-
203	66.97	67.28	割れ目が交差し、細かい亀甲状となる。	66.97	67.28	割れ目が交差し、細かい亀甲状となる。	-	66.97	67.28	66.97~67.28m:割れ目が交差し、細かい亀甲状となる。	-
204	67.28	67.78	変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化速む。 破砕部との境界は明瞭であるが滑動している。上層側は低角の割れ目で見られる。原岩組織は不明瞭。含まれる岩片に定向配列などは見られない。	67.28	67.78	変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化速む。 破砕部との境界は明瞭であるが滑動している。上層側は低角の割れ目で見られる。原岩組織は不明瞭。含まれる岩片に定向配列などは見られない。	-	67.28	67.78	67.28~67.75m:変質部で、軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈する。割れ目は不明瞭となる。粘土化が速む。破砕部との境界は明瞭であるが滑動している。上層側は低角の割れ目で見られる。原岩組織は不明瞭で含まれる岩片に定向配列などは見られない。	-

H27-B-4 67.28~72.24m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書主状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	
		コア観察カードから正しく記載されているか?	<input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく記載されているか?	<input checked="" type="checkbox"/>				
205	67.28	67.75	(岩級区分欄)D (破砕区分欄)Hb	67.28	67.75	(岩級区分欄)CL (破砕区分欄)-	-	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた破砕部ではないため破砕区分は削除した	67.28	67.75	(岩級区分欄)CLに含める (破砕区分)-
206	-	-	-	67.85	68.70	傾斜30~50°程度の割れ目が主体。特に、68.23~68.64m間は0.5~3cm間隔で発達している。割れ目には所々、灰白色粘土やマンガンを伴う。	-	同系統の割れ目が発達していることは周囲と異なる状況であるため追記した	67.85	68.70	67.85~68.70m:傾斜30~50°程度の割れ目が主体で、特に、38.23~68.64m間は0.5~3cm間隔で発達する。割れ目には所々、灰白色粘土やマンガンを伴う。
207	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)Dランク	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)Cランク	-	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	67.85	68.07	(コアの硬さ欄)Cランク
208	67.85	80.13	(実質欄)3ランク	67.85	80.13	(実質欄)2ランク	-	実質の程度が弱いため実質のランクを2ランクに変更した	67.85	80.13	(実質欄)2ランク
209	68.07	-	割れ目が卓越し、コアも軟質で表面はザラつく。	68.07	68.97	割れ目が卓越し、コアは軟質で表面はザラつく。	-	割れ目の記載は、深度67.85~68.70mの記載に含めたため削除した	68.07	68.97	68.07~68.97m:コアは軟質で表面がザラつく。
210	68.70	68.70	30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む。	68.70	68.70	30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む。 割れ目の周辺は幅5~10mm程度で緑色化が顕著。	-	割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	68.70	68.70	68.70m:30°で幅8mmの黄褐色粘土を挟む。割れ目の周辺は幅5~10mm程度で緑色化が顕著である。
211	-	-	-	68.70	68.97	傾斜70~90°の割れ目が多い。	-	高角度割れ目は周囲と異なる状況であるため追記した	68.70	68.97	68.70~68.97m:傾斜70~90°の割れ目が多い。
212	68.97	69.08	細塊~砂状コア。粘土なし。	-	-	-	-	-	68.97	69.08	68.97~69.08m:細塊~砂状を呈するが、粘土は挟まない。
213	68.97	69.08	(岩級区分欄)D	68.97	69.08	(岩級区分欄)CL	-	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	68.97	69.08	(岩級区分欄)CLに含める
214	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)Dランク	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)Cランク	-	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	69.08	69.85	(コアの硬さ欄)Cランク
215	69.28	69.33	割れ目沿いに劣化。細塊状となる。	-	-	-	-	-	69.28	69.33	69.28~69.33m:割れ目沿いに劣化し、細塊状となる。
216	-	-	-	69.59	69.59	傾斜30°の割れ目に沿ってわずかに緑色化している。	-	割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	69.59	69.59	69.59m、69.70m:傾斜25~30°の割れ目沿いにわずかに緑色化する。
217	69.63	69.77	高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭。	69.63	69.77	90~70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭。	-	割れ目の傾斜を追記した。 -表現の適正化(交叉⇒交差)	69.63	69.77	69.63~69.77m:50~70°の高角度と25°の低角度の割れ目が交叉し、高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭である。
218	-	-	-	69.70	69.70	傾斜25°の割れ目に沿ってわずかに緑色化している。	-	割れ目周辺の緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	-	-	-
219	69.85	70.00	割れ目密集。岩片状コア。	-	-	-	-	-	69.85	70.00	69.85~70.00m:割れ目が密集し、岩片状を呈する。
220	70.06	70.06	付近、60°、幅20mm~30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。	70.06	70.06	付近、60°、幅20~30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。割れ目沿いの細粒部の分布は連続性に乏しく、細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	20mmの法にあるものを削除した -破砕されていると記載の脆弱部は原岩組織が認められ、岩片の移動や回転が見られない -挟むする細粒部及び脆弱部の連続性、脆弱部及び周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した -上記及び追記した理由から破砕部ではないと判断して「弱く破砕され」を削除した	70.06	70.06	0.06m付近、傾斜60°で幅20~30mmで局所的に脆弱となる。割れ目沿いの細粒部は連続性に乏しく、細粒部の下端側にある脆弱部も不連続で、脆弱部及び周辺岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。
221	-	-	-	70.06	70.06	傾斜55°で幅3~10mmの灰白色粘土を挟む。	-	幅広い粘土の挟在物は周囲と異なる状況であるため追記した	70.06	70.06	70.06m:傾斜55°で幅3~10mmの灰白色粘土を挟む。
222	70.08	71.20	(割れ目状態欄)Cランク	70.08	71.20	(割れ目状態欄)Bランク	-	挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した	70.08	71.20	(割れ目状態欄)Bランク
223	-	-	-	70.91	72.00	アプライト脈を挟む。上端50°、下端はコア端部で不明。	-	珪石の含有率が5%未満であるためアプライトに変更した	70.91	72.00	70.91~72.00m:アプライト脈を挟む。上端50°、下端はコア端部で不明である。
224	71.22	71.25	71.22m、60°、71.25m 54°、剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm間隔となる。割れ目に挟在する幅1mm以下の黄褐色粘土は不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。	71.22	71.25	71.22m、60°、71.25m 54°、せん断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm間隔となる。割れ目に挟在する幅1mm以下の黄褐色粘土は不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。	-	-表現の統一(せん断) -下端側の面は凹凸があり、その組み合わせは良い -挟在物の連続性及び原岩組織の有無について追記した -上記及び追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した	71.22	71.25	71.22m~60°、71.25m~54°の割れ目間が幅20~30mmで脆弱となる。割れ目に1mm以下の黄褐色粘土を挟むが、不連続である。2条の割れ目の間は原岩組織が認められる。
225	-	-	-	71.13	71.38	褐色化している。	-	褐色化は周囲と異なる状況であるため追記した	71.13	71.38	71.13~71.38m:褐色化する。
226	-	-	-	71.25	71.33	マンガン汚染が顕著。	-	マンガン汚染は周囲と異なる状況であるため追記した	71.25	71.33	71.25~71.33m:マンガン汚染が顕著である。
227	71.25	72.73	この間、やや軟質でコア表面はザラつく。	-	-	-	-	-	71.25	72.73	71.25~72.73m:やや軟質でコア表面はザラつく。
228	71.73	71.95	(コアの硬さ欄)Dランク	71.73	71.95	(コアの硬さ欄)Cランク	-	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	71.73	71.95	(コアの硬さ欄)Cランク
229	-	-	-	72.24	72.24	傾斜53°で幅1~3mmのマンガンを挟む。	-	マンガンの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	72.24	72.24	72.24m:傾斜53°で幅1~3mmのマンガンを挟む。

H27-B-4 72.33~77.67m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書注状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度		記事	選定した記事内容	
230	72.33	72.33	32°の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と塊状物と思われる暗緑灰色の圓い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。	72.33	72.33	32°の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と塊状物と思われる暗緑灰色の硬質な砂圓い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。細粒部周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	腐植土ではないため削除した。 周辺の岩壁に劣化が見られず、細粒部中の岩片に定向配列などが認められたため破砕部ではないと判断して「硬砂物」を削除した。 マンガン汚染された岩壁からなるためその旨の記事に変更した。 細粒部周辺の岩壁の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 表現の統一(圓い⇒硬質な)	72.33	72.33	72.33m:32°の割れ目に幅8~15mmのマンガンに汚染された暗緑灰色の硬質な砂を挟む。細粒部周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
231	-	-	-	72.41	72.41	傾斜63°で幅1~2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。	灰白色粘土の挟在は層間と異なる状況であるため追記した。	72.41	72.41	72.41m:傾斜63°で幅1~2mmの灰白色粘土を不連続に挟む。	
232	-	-	-	72.48	72.48	傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1~4mmのマンガンを含み、径1~2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。	マンガンの挟在は層間と異なる状況であるため追記した。	72.48	72.48	72.48m:傾斜38°の屈曲した割れ目に幅1~4mmのマンガンを含み、径1~2mmの花崗岩類の岩片を多く含む。	
233	72.48	72.91	(割れ目状態欄)Bランク	72.48	72.91	(割れ目状態欄)Bランク	挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した。	72.48	72.91	(割れ目状態欄)Bランク	
234	73.03	73.30	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Aランク	73.03	73.30	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	コアは硬質で、割れ目も少なく、挟在物を伴わないためコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態の各ランクを変更した。	73.03	73.30	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	
235	73.56	73.56	65°の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む。	73.56	73.56	65°の割れ目に暗褐色にマンガン汚染されたシルト質の砂を幅4~10mm挟む。	マンガンによる汚染であることを追記した。 幅であることを追記した。	73.56	73.56	73.56m:65°で幅4~10mmのマンガン汚染された暗褐色のシルト質砂を挟む。	
236	74.16	74.34	30°~50°の割れ目が密集する。脆弱。	-	-	-		74.16	74.34	74.16~74.34m:30°~50°の割れ目が密集し、脆弱である。	
237	-	-	-	74.16	74.23	微細な割れ目が発達し、マンガンが濃集する。上下端の境界は45°程度で凹凸が著しい。	発達した微細な割れ目やマンガンの濃集は層間と異なる状況であるため追記した。	74.16	74.23	74.16~74.23m:微細な割れ目が発達し、マンガンが濃集する。上下端の境界は45°程度で凹凸が著しい。	
238	74.19	74.34	(コアの形状欄)Vランク	74.19	74.34	(コアの形状欄)VIランク	割れ目が密集しているためコアの形状のランクをVIランクに変更した。	74.19	74.34	(コアの形状欄)VIランク	
239	-	-	-	74.32	74.32	傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。	灰黄色粘土の挟在は層間と異なる状況であるため追記した。	74.32	74.32	74.32m:傾斜48°で幅3~5mmの砂混じり灰黄色粘土を挟む。	
240	74.34	75.18	(割れ目状態欄)Cランク	74.34	75.18	(割れ目状態欄)Bランク	挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した。	74.34	75.18	(割れ目状態欄)Bランク	
241	-	-	-	74.63	74.63	傾斜60°で幅3~5mmの黄褐色の砂混じり粘土を挟む。周囲は細片化している。	粘土の挟在は層間と異なる状況であるため追記した。	74.63	74.63	74.63m:傾斜60°で幅3~5mmの黄褐色の砂混じり粘土を挟む。周囲は細片化する。	
242	75.00	75.18	(コアの硬さ欄)Cランク	75.00	75.18	(コアの硬さ欄)Bランク	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した。	75.00	75.18	(コアの硬さ欄)Bランク	
243	75.05	75.29	20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。	-	-	-		75.05	75.29	75.05~75.29m:20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する。	
244	75.77	76.25	割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	75.97	76.25	割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	記載の修正(75.77⇒75.97)	75.97	76.25	75.97~76.25m:割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	
245	-	-	-	76.17	76.17	傾斜51°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。上端側は一部灰白色粘土が網目状に分布し、変質が進んでいる。	粘土の挟在と網目状の粘土は層間と異なる状況であるため追記した。	76.17	76.17	76.17m:傾斜51°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。上端側は一部灰白色粘土が網目状に分布し、変質が進む。	
246	-	-	-	76.25	77.80	アプライト径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界はゆがんで不明瞭。	珪石の含有量が少ないため花崗岩をアプライトに変更し、アプライトの構成鉱物や花崗岩との境界の性状について追記した。	76.25	77.80	76.25~77.80m:アプライト径1~2mmの石英、長石、黒雲母を2~3%含む。上下端の境界はゆがんで不明瞭。	
247	76.25	77.80	(地質名欄)Cp	76.25	77.80	(地質名欄)Ap	上記に合わせて地質名を変更した。	76.25	77.80	(地質名欄)アプライト	
248	-	-	-	76.61	76.61	傾斜54°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。	粘土の挟在は層間と異なる状況であるため追記した。	76.61	76.61	76.61m:傾斜54°で幅1~3mmの明褐色粘土を挟む。	
249	-	-	-	76.80	76.80	傾斜45°で幅1~6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。	粘土の挟在は層間と異なる状況であるため追記した。	76.80	76.80	76.80m:傾斜45°で幅1~6mmの砂混じり灰白色粘土を挟む。	
250	-	-	-	76.90	76.90	傾斜50°で幅1~3mmのマンガンを含み。	マンガンの挟在は層間と異なる状況であるため追記した。	76.90	76.90	76.90m:傾斜50°で幅1~3mmのマンガンを含み。	
251	-	-	-	77.19	77.19	傾斜50°で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。	粘土の挟在は層間と異なる状況であるため追記した。	77.19	77.19	77.19m:傾斜50°で幅5mm程度の黄褐色粘土を挟む。	
252	77.47	77.67	(コアの硬さ欄)Dランク	77.48	77.67	(コアの硬さ欄)Dランク	記載の修正(77.47⇒77.48)	77.48	77.67	(コアの硬さ欄)Dランク	
253	77.48	77.67	割れ目、特に低角度のもの沿いに劣化が見られ、コアは軟質となりザラつく。	77.48	77.67	割れ目、特に20°程度の低角度のもの沿いに劣化が見られ、コアは軟質となりザラつく。77.55~77.60m間はマンガンが濃集する。	低角度の割れ目について具体的な数値を追記した。 マンガンの濃集は層間と異なる状況であるため追記した。	77.48	77.67	77.48~77.67m:20°程度の低角度割れ目沿いに劣化が見られ、コアは軟質でザラつく。77.55~77.60m間はマンガンが濃集する。	

H27-B-4 77.67~83.32m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書主状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度		下端深度	選定した記事内容			
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>)							
254	77.67	77.94	(割れ目状態欄) eランク	77.67	77.94	(割れ目状態欄) bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	77.67	77.94	(割れ目状態欄) bランク	-		
255	77.96	78.08	割れ目に沿って劣化が見られ、砂状の挟在物が明瞭。	77.96	78.08	割れ目に沿って劣化が見られ、黄褐色の砂状の挟在物が明瞭。	・挟在物の色調を追記した	77.96	78.08	77.96~78.08m: 割れ目沿いに劣化し、黄褐色の砂状の挟在物を伴う。	-		
256	78.21	78.51	多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱。	78.21	78.51	多方向の割れ目が見られ、やや脆弱。	・表裏の適正化(「多方向が卓越」は不自然であるため)	78.21	78.51	78.21~78.51m: 多方向の割れ目が見られ、やや脆弱である。	-		
257	-	-	-	78.29	78.29	傾斜24°で幅10mm程度の砂~細片状を呈する。	・砂~細片状の挟在は周囲と異なる状態であるため追記した	78.29	78.29	78.29m: 傾斜24°で幅10mm程度の砂~細片状を呈する。	-		
258	-	-	-	78.47	78.71	割れ目沿いにマンガン汚染が目立つ。	・マンガン汚染は周囲と異なる状態であるため追記した	78.47	78.71	78.47~78.71m: 割れ目沿いにマンガン汚染が目立つ。	-		
259	78.47	78.71	(割れ目状態欄) cランク	78.47	78.71	(割れ目状態欄) bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	78.47	78.71	(割れ目状態欄) bランク	-		
260	78.90	79.03	(コアの形状欄) IVランク (岩級区分欄) CL	78.90	79.03	(コアの形状欄) Vランク (岩級区分欄) CM	・割れ目が発達しているためコアの形状欄のランクをVランクに変更した ・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	78.90	79.03	(コアの形状欄) Vランク (岩級区分欄) CMに含める	-		
261	79.23	79.67	(岩級区分欄) CL	79.23	79.67	(岩級区分欄) CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	79.23	79.67	(岩級区分欄) CMに含める	-		
262	79.45	79.52	マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。	79.45	79.52	マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。	・深度79.57mまで筋状のマンガン汚染が見られるため下端深度を変更した ・筋状の修正(少し多い)	79.45	79.52	79.45~79.57m: 短い筋状のマンガン汚染が多数見られる。高角度のものが多い。この筋上に割れ目として認識できるものは少ない。	-		
263	79.67	80.13	(割れ目状態欄) cランク	79.67	80.13	(割れ目状態欄) bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	79.67	80.13	(割れ目状態欄) bランク	-		
264	79.67	79.82	(岩級区分欄) CL	79.67	79.82	(岩級区分欄) CM	・上記の割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した	79.67	79.82	(岩級区分欄) CM	-		
265	80.13	80.29	35~55°の同方向の割れ目が密集する。	80.13	80.29	35~55°の同方向の割れ目が密集する。マンガン汚染が目立つ。棕色も見られる。	・マンガン汚染や棕色は周囲と異なる状態であるため追記した	80.13	80.29	80.13~80.29m: 35~55°の同方向の割れ目が密集する。マンガン汚染が目立つ。棕色も見られる。	-		
266	80.13	80.51	(岩級区分欄) CL	80.13	80.51	(岩級区分欄) CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	80.13	80.51	(岩級区分欄) CMに含める	-		
267	80.29	80.51	割れ目の傾度はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明瞭。	-	-	-	-	80.29	80.51	80.29~80.51m: 割れ目はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明瞭である。	-		
268	80.29	84.46	(変質欄) 3ランク	80.29	84.46	(変質欄) 2ランク	・変質の傾度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した	80.29	84.46	(変質欄) 2ランク	-		
269	80.51	81.02	割れ目には挟在物が見られるものが多いが、岩質は硬い。	80.51	81.02	割れ目には挟在物が見られず、岩質は硬い。	・挟在物は少ないため記載を変更した	80.51	81.02	80.51~81.02m: 割れ目に挟在物は見られず、岩質は硬い。	-		
270	80.51	81.02	(コアの形状欄) IVランク (割れ目状態欄) eランク (岩級区分欄) CM	80.51	81.02	(コアの形状欄) IIランク (割れ目状態欄) bランク (岩級区分欄) CH	・割れ目が少なく、挟在物を伴う割れ目も見られないため、コアの形状及び割れ目状態のランクを変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	80.51	81.02	(コアの形状欄) IIランク (割れ目状態欄) bランク (岩級区分欄) CH	-		
271	81.02	81.30	(コアの硬さ欄) Cランク (岩級区分欄) CL	81.02	81.30	(コアの硬さ欄) Bランク (岩級区分欄) CM	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した ・上記のコアの硬さのランクの変更に伴い、岩級を変更した	81.02	81.30	(コアの硬さ欄) Bランク (岩級区分欄) CM	-		
272	81.30	81.96	割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質。高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着している。	81.30	81.96	割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質。90°の高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着している。	・高角度の割れ目について具体的な数値を追記した	81.30	81.96	81.30~81.96m: 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質である。90°の高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着する。	-		
273	81.30	82.70	(割れ目状態欄) cランク	81.30	82.70	(割れ目状態欄) bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	81.30	82.70	(割れ目状態欄) bランク	-		
274	82.48	82.83	(コアの硬さ欄) Cランク	82.48	82.83	(コアの硬さ欄) Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	82.48	82.83	(コアの硬さ欄) Bランク	-		
275	81.96	82.83	(岩級区分欄) CL	81.96	82.83	(岩級区分欄) CM	・割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した	81.96	82.83	(岩級区分欄) CM	-		
276	-	-	-	82.70	82.70	傾斜50°前後の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	・粘土の挟在は周囲と異なる状態であるため追記した	82.70	82.83	82.70m, 82.83m: 傾斜50°前後で幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	・記事内容が同じであるため、82.83mの深度も含めて記載した		
277	-	-	-	82.83	82.83	傾斜50°前後の割れ目に幅1~3mmの褐色粘土を挟む。	・粘土の挟在は周囲と異なる状態であるため追記した	-	-	-	・上記にまとめたため記載しない		
278	82.83	83.32	(岩級区分欄) CL	82.83	83.32	(岩級区分欄) CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	82.83	83.32	(岩級区分欄) CMに含める	-		
279	83.08	83.32	割れ目に沿った褐色汚染が明瞭。汚染は、割れ目沿いのみならず、コアの半分程度に及ぶ。	83.08	83.32	40°前後の割れ目に沿った褐色汚染が明瞭。汚染は、割れ目沿いのみならず、一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な割れ目が発達している。	・割れ目の傾斜について追記した ・微細な割れ目の発達に周囲と異なる状態であるため追記した ・表裏の適正化(「コアの半分」の意味が分かりにくい)	83.08	83.32	83.08~83.32m: 40°前後の割れ目沿いに褐色汚染が明瞭である。汚染は、割れ目沿いのみならず、一部は岩芯まで褐色化する。多方向の微細な割れ目が発達する。	-		

H27-B-4 83.31~89.27m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書主状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの重要点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事		上端深度	下端深度	記事	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか?	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)					適正化した記事内容		
		<input checked="" type="checkbox"/>				<input checked="" type="checkbox"/>							
280	-	-	-	83.31	83.31	傾斜38°前後の割れ目に幅0~8mmの暗褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。	粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	83.31	83.31	83.31m:傾斜38°前後で幅0~8mmの暗褐色粘土を挟む。径1cm以下の岩片を多く含む。	-	-	
281	83.32	84.09	(割れ目状態欄)hランク	83.32	84.09	(割れ目状態欄)hランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した	83.32	84.09	(割れ目状態欄)hランク	-	-	
282	84.09	84.77	割れ目が卓越し、岩質も軟質となる。特に84.39~85.58間は劣化が進み、脆弱。	84.09	84.77	多方向の割れ目が発達し、岩質も軟質となる。特に84.15~84.18m、84.39~84.58m間は劣化が進み、脆弱。黄色味を帯びて細片状を呈する。	・不規則な割れ目が発達していることについて追記した ・劣化が進んだ区間を追記した ・割記の修正(85.58⇒84.58m、深度の間違いと単位忘れ) ・劣化の性状について追記した	84.09	84.77	84.09~84.77m:多方向の割れ目が発達し、岩質も軟質である。特に84.15~84.18m、84.39~84.58m間は劣化が進み、脆弱である。黄色味を帯びて細片状を呈する。	-	-	
283	84.58	93.13	(実質欄)3ランク	84.58	93.13	(実質欄)2ランク	・実質の程度が低いため実質のランクを2ランクに変更した	84.58	93.13	(実質欄)2ランク	-	-	
284	84.81	84.94	(コアの形状欄)IVランク	84.81	84.94	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	84.81	84.94	(コアの形状欄)IVランク	-	-	
285	84.81	85.86	(割れ目状態欄)hランク	84.81	85.86	(割れ目状態欄)hランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した	84.81	85.86	(割れ目状態欄)hランク	-	-	
286	84.81	85.73	(岩級区分欄)CL	84.81	85.73	(岩級区分欄)CM	・上記のコアの形状及び割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した	84.81	85.73	(岩級区分欄)CM	-	-	
287	85.73	85.97	高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越。岩片状となる。	85.73	85.97	70~90°の高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が発達。岩片状となる。	・高角度の割れ目について具体的な数値を追記した ・表現の適正化(卓越⇒発達)	85.73	85.97	85.73~85.97m:70~90°の高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が発達し、岩片状となる。	-	-	
288	85.73	85.97	(岩級区分欄)CL	85.73	85.97	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	85.73	85.97	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	
289	85.97	86.73	(割れ目状態欄)hランク	85.97	86.73	(割れ目状態欄)hランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した	85.97	86.73	(割れ目状態欄)hランク	-	-	
290	85.97	86.14	(岩級区分欄)CL	85.97	86.14	(岩級区分欄)CM	・上記の割れ目状態のランクの変更に伴い、岩級を変更した	85.97	86.14	(岩級区分欄)CM	-	-	
291	86.73	86.83	上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる。	86.73	86.83	上傾37°下傾40°の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に明褐色の砂~礫状となる。	・割れ目の傾斜を具体的に追記した ・砂~礫状部の色調を追記した	86.73	86.83	86.73~86.83m:上傾37°、下傾40°の割れ目に挟まれた区間で局所的に明褐色の砂~礫状となる。	-	-	
292	86.73	86.83	(岩級区分欄)D	86.73	86.83	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	86.73	86.83	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	
293	86.83	86.96	(割れ目状態欄)hランク	86.83	86.96	(割れ目状態欄)hランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した	86.83	86.96	(割れ目状態欄)hランク	-	-	
294	86.83	88.16	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	86.83	88.16	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した ・上記の変更に伴い、岩級を変更した	86.83	88.16	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-	-	
295	86.96	88.03	割れ目沿いや割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られない。岩質も硬い。	86.96	88.03	傾斜60°前後の割れ目沿いや割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られない。岩質も硬い。	・割れ目沿いの褐色は深度86.83mにも見られるため、上端深度を変更した ・割れ目の傾斜を具体的に追記した	86.96	88.03	86.96~88.03m:傾斜60°前後の割れ目沿いや割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、挟在物はほとんど見られず、岩質も硬い。	-	-	
296	-	-	-	87.11	87.11	傾斜60°で幅5mm程度が緑色化している。	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	87.11	87.11	87.11m:傾斜60°で幅5mm程度が緑色化する。	-	-	
297	88.03	88.16	(割れ目状態欄)hランク	88.03	88.16	(割れ目状態欄)hランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した	88.03	88.16	(割れ目状態欄)hランク	-	-	
298	88.26	88.62	(岩級区分欄)CL	88.26	88.62	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	88.26	88.62	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	
299	-	-	-	88.59	88.59	傾斜43°の割れ目に幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度でわずかに緑色化している。	粘土の挟在及び緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	88.59	88.59	88.59m:傾斜43°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度でわずかに緑色化する。	-	-	
300	88.62	88.88	(割れ目状態欄)hランク	88.62	88.88	(割れ目状態欄)hランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した	88.62	88.88	(割れ目状態欄)hランク	-	-	
301	88.88	89.00	(岩級区分欄)CL	88.88	89.00	(岩級区分欄)CM	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	88.88	89.00	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	
302	88.96	88.96	45°の割れ目の下盤劣化し局所に非常に脆弱。上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭。	88.96	88.96	45°の割れ目の下盤劣化し局所的に非常に脆弱。上盤側は幅20mmで酸化汚染及びマンガンの汚染がコアに明瞭に見られる。	・上盤側が必ずしも上盤とは限らないため上端に変更した。下盤も同様 ・割記の修正(局所に⇒局所的に) ・表現の適正化(巾⇒幅) ・酸化汚染も見られるため追記した ・文章の適正化	88.96	88.96	88.96m:45°の割れ目の下盤側が劣化し局所的に非常に脆弱である。上盤側は幅20mmで酸化汚染及びマンガンの汚染が明瞭に見られる。	-	-	
303	89.00	89.27	(割れ目状態欄)hランク	89.00	89.27	(割れ目状態欄)hランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した	89.00	89.27	(割れ目状態欄)hランク	-	-	

H27-B-4 89.27~93.88m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書性状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
		コア観察カードから正しく転記されているか?	☑			追加変更した情報が正しく転記されているか?	☑			選定した記事内容			
304	89.27	89.44	微細な割れ目が卓越する。コアも崩れ散状。	89.27	89.44	傾斜45°前後の微細な割れ目が0.5~3cm程度の間隔で発達する。コアも崩れ散状。	傾斜45°前後の微細な割れ目について追記した。表現の適正化(卓越⇒発達)。	89.27	89.44	89.27~89.44m:傾斜45°前後の微細な割れ目が0.5~3cm程度の間隔で発達し、コアもやや軟質である。	-	-	
305	89.27	89.44	(岩粒区分欄)CL	89.27	89.44	(岩粒区分欄)CM	区間長が50cm未満のため、周囲の岩粒に含める	89.27	89.44	(岩粒区分欄)CMに含める	-	-	
306	89.44	90.36	(割れ目状態欄)○ランク	89.44	90.36	(割れ目状態欄)○ランク	挿入物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクを○ランクに変更した	89.44	90.36	(割れ目状態欄)○ランク	-	-	
307	89.44	89.50	(岩粒区分欄)CL	89.44	89.50	(岩粒区分欄)CM	上記の割れ目状態のランクの変更に伴い、岩粒を変更した	89.44	89.50	(岩粒区分欄)CM	-	-	
308	89.00	90.00	(RQD欄)20	89.00	90.00	(RQD欄)0	振記の修正(最大コア長が8cmであるため、RQDは0となる)	89.00	90.00	(RQD欄)0	-	-	
309	-	-	-	90.64	90.64	傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを含む。周辺は幅1cm程度緑色化している。	マンガンの挿入及び緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	90.64	90.64	90.64m:傾斜54°で幅2mm程度のマンガンを含む。周辺は幅1cm程度緑色化する。	-	-	
310	90.75	91.96	微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は50°以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。	90.75	91.96	微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は50°以下の低角度の顕在化した割れ目によって切られるものが多い。50°以下の割れ目周辺の細粒部は伴わない。もしくは途中でせん断し、連続性に乏しく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・50°以下は低角度ではないため「低角度」の記載を削除した。 ・50°以下の割れ目周辺の細粒部の連続性、割れ目周辺の岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 ・高角度割れ目で切られているとした高角度割れ目は、切っている低角度割れ目を併せて間断に対比できる高角度割れ目が見られないことから、切っただけであると判断することができないため「止まっている」に変更した	90.75	91.96	90.75~91.96m:微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は50°以下の顕在化した割れ目によって止まっているものが多い。50°以下の割れ目に細粒部は伴わない。もしくは途中でせん断し、連続性に乏しく、割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	
311	91.45	91.45	48°剪断性の割れ目(節理)、幅6mmで崩れ散状。緑色味を帯びる。	91.45	91.45	48°せん断性の割れ目(節理)、幅6mmで崩れ散状。緑色味を帯びる。挿入する細粒部はせん断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表現の統一(せん断) ・挿入する細粒部の連続性、周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した。 ・追記した理由から破砕部及びせん断性割れ目ではないと判断して「崩れ散状」と「せん断性」を削除した	91.45	91.45	91.45m:48°で幅6mmが緑色を帯びる。割れ目に挿入する細粒部はせん断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	
312	92.55	92.71	高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	92.55	92.71	多方向の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	・あらゆる方向の割れ目が分布するため記載を変更した ・表現の適正化(交叉⇒交差)	92.55	92.71	92.55~92.71m:多方向の割れ目が交叉し亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	-	-	
313	-	-	-	92.94	92.96	傾斜27~40°の2本の割れ目に挟まれた区間が黄色味を帯びる。やや軟質。	・黄色味を帯びることは周囲と異なる状況であるため追記した	92.94	92.96	92.94~92.96m:傾斜27~40°の2本の割れ目に挟まれた区間が黄色味を帯びてやや軟質である。	-	-	
314	93.13	93.22	破砕帯	93.13	93.22	破砕帯(最新活動面は93.13mか93.14mの可能性がある)	・用語の統一(破砕帯⇒破砕部) ・最新活動面について追記した	93.13	93.22	●93.13~93.22m:破砕部 93.13~93.14m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30°、淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m:粘土混じり硬状部(H) 上盤30°、下盤50°、いずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を含む。にふい黄色色を呈する。幅67mm。	-	-	
315	93.13	93.13	上盤30°、粘土12mm、主	93.13	93.14	上下端30°、粘土12mm、主 軟質な淡黄色粘土(Hc-1)。直線的に連続する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・下端境界について追記した。 ・「主」は、主せん断面のことであるが、コア観察で93.13mか93.14mか判断できなかったため削除した。 ・粘土の硬軟、色調、破砕度区分、連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	93.13	93.22	●93.13~93.22m:破砕部 93.13~93.14m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30°、淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m:粘土混じり硬状部(H) 上盤30°、下盤50°、いずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を含む。にふい黄色色を呈する。幅67mm。	-	-	
316	93.22	93.22	下盤50°、粘土なし。上盤の下側50mm軟質で粘土層が見られる。	93.14	93.22	粘土混じり硬状部(H) にふい黄色色を呈する。上盤30°、下盤50°、径2~10mmの岩片主体。軟質であるが、含まれる灰白色粘土細脈は局所的に分布する。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。幅67mm。	・上端深度について追記し、本区間の破砕部の破砕部内物質、破砕度区分、色調、上端下端境界の硬軟、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織、基調について追記した	93.13	93.22	●93.13~93.22m:破砕部 93.13~93.14m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30°、淡黄色を呈する。幅12mm。 93.14~93.22m:粘土混じり硬状部(H) 上盤30°、下盤50°、いずれも直線的に連続。径2~10mmの岩片主体で岩片間にわずかに灰白色粘土細脈を含む。にふい黄色色を呈する。幅67mm。	-	-	
317	93.13	93.22	(コアの硬さ欄)○ランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)○ランク	93.13	93.22	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)○ランク	・上記の破砕部の区間のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態の各ランクを区分して変更した	93.13	93.22	(コアの硬さ欄)Eランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)○ランク	-	-	
318	-	-	-	93.13	93.14	(破砕度区分)Hc-1	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した	93.13	93.14	(破砕度区分)Hc-1	-	-	
319	-	-	-	93.14	93.22	(破砕度区分)H	・上記の記載に合わせて破砕度区分を追記した	93.14	93.22	(破砕度区分)H	-	-	
320	93.22	93.37	(コアの形状欄)IVランク	93.22	93.37	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	93.22	93.37	(コアの形状欄)IVランク	-	-	
321	93.22	98.56	(実質欄)3ランク	93.22	98.56	(実質欄)2ランク	・実質の程度が弱いため実質のランクを2ランクに変更した	93.22	98.56	(実質欄)2ランク	-	-	
322	93.57	94.18	(コアの形状欄)IVランク	93.57	94.18	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	93.57	94.18	(コアの形状欄)IVランク	-	-	
323	93.70	93.88	(コアの硬さ欄)Bランク	93.70	93.88	(コアの硬さ欄)Bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	93.70	93.88	(コアの硬さ欄)Bランク	-	-	

H27-B-4 93.70~99.53m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書仕状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事		上端深度	下端深度	記事	記事	
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)						
324	93.70	94.18	(割れ目状態欄)Cランク	(割れ目状態欄)Bランク	93.70	94.18	(割れ目状態欄)Bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した。	93.70	94.18	(割れ目状態欄)Bランク	-	-
325	93.70	94.76	(岩鏡区分欄)CL	(岩鏡区分欄)CM	93.70	94.76	(岩鏡区分欄)CM	・上記のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態のランクの変更に伴い、岩鏡を変更した。	93.70	94.76	(岩鏡区分欄)CM	-	-
326	94.38	94.40	断層性の節理2条。割れ目沿いに劣化し脆弱となる。	せん断性の節理2条。割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	94.38	94.40	せん断性の節理2条。割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	・表現の統一(せん断) ・各節理を横断する石英粒が見られる ・挟在する粘り質の連続性、当該区間及び周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した ・上記及び追記した理由からせん断性の節理ではないと判断して「せん断性の」を削除した。	94.38	94.40	94.38~14.40m:2条の割れ目沿いに劣化し脆弱となる。挟在する灰黄色粘土は不連続で、この区間及び周辺岩盤には原岩組織が認められる。系統的な割れ目は存在しない。	-	-
327	94.40	94.76	(コアの形状欄)Vランク (割れ目状態欄)Cランク	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	94.40	94.76	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	・割れ目が少なく、挟在物を伴う割れ目は少ないためコアの形状及び割れ目状態のランクを変更した。	94.40	94.76	(コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)Bランク	-	-
328	95.08	95.37	35~60°の平行した割れ目によって弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。	35~60°の平行した割れ目によって弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。	95.08	95.37	35~60°の平行した割れ目によって弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。	・粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した。	95.08	95.37	95.08~15.37m:35~60°の平行した割れ目によって弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。95.37mの割れ目に幅1mmの灰黄色粘土を挟む。	-	-
329	95.65	95.75	劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。	傾斜60°で幅3cm程度で劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。砂礫状を呈する。	95.65	95.75	傾斜60°で幅3cm程度で劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。砂礫状を呈する。	・劣化部の傾斜及び幅について追記した ・砂礫状は周囲と異なる状況であるため追記した ・輝沸石はアルカリ性の熱水変質で晶出することが多く、敷貫サイトで見られる変質鉱物は同一性のものが多いため、そのような環境で晶出する輝沸石の方が適切と判断して変更した。	95.65	95.75	95.65~15.75m:傾斜60°で幅3cm程度で劣化し砂礫状を呈する。輝沸石が散在する。	-	-
330	96.20	96.20	30°の断層性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱。軟質となり弱い破砕を受ける。一部緑色味を帯びる。	30°のせん断性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱。軟質となり弱い破砕を受ける。一部緑色味を帯びる。 下部割れ目1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる砂や岩片に定向配列は認められない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	96.20	96.20	30°のせん断性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱。軟質となり弱い破砕を受ける。一部緑色味を帯びる。 下部割れ目1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる砂や岩片に定向配列は認められない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	・表現の統一(せん断) ・緑色化は全体に見られるため「一部」を削除した ・砂礫状部の定向配列、脆弱部の境界の直線性、周辺岩盤の原岩組織の有無、系統的な割れ目の有無について追記した ・追記した理由から破砕部及びせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性」「弱い破砕を受ける」を削除した。	96.20	96.20	96.20~16.32m:30°で幅30~40mmで脆弱で軟質となる。緑色を帯びる。下部割れ目1cm程度は砂礫状を呈するが、含まれる砂や岩片に定向配列は認められない。脆弱部の境界は不明瞭で凹凸があり、脆弱部周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-
331	96.42	97.10	(色調欄)7.5YR8/6 浅黄緑	(色調欄)7.5YR8/6 浅黄緑	96.42	97.10	(色調欄)7.5YR8/6 浅黄緑	・96.42mに色調境界が見られないため、96.22mに境界を変更した。	96.42	97.10	(色調欄)浅黄緑	-	-
332	96.53	97.00	(割れ目状態欄)Cランク	(割れ目状態欄)Bランク	96.53	97.00	(割れ目状態欄)Bランク	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをBランクに変更した。	96.53	97.00	(割れ目状態欄)Bランク	-	-
333	96.53	97.10	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Cランク	96.53	97.10	(コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した。	96.53	97.10	(コアの硬さ欄)Cランク	-	-
334	96.85	97.00	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)IVランク	96.85	97.00	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した。	96.85	97.00	(コアの形状欄)IVランク	-	-
335	-	-	-	傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化している。	96.96	96.96	傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化している。	・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した。	96.96	96.96	96.96m:傾斜52°で幅1.5cm程度が緑色化する。	-	-
336	97.10	97.58	割れ目が著しく発達し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	割れ目が著しく発達し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。コアが乱れている。	97.10	97.58	割れ目が著しく発達し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。コアが乱れている。	・卓越を発達に変更し、文章の適正化を図った ・コアの擾乱部について追記した。	97.10	97.58	97.10~17.58m:97.81~98.03m:割れ目が著しく発達し、砂礫状を呈する。コアが乱れている。	・記事内容が同じであるため、97.81~98.03mの深度も含めて記載したコアが乱れている。	
337	97.58	97.81	(岩鏡区分欄)CL	(岩鏡区分欄)D	97.58	97.81	(岩鏡区分欄)D	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩鏡に含めた。	97.58	97.81	(岩鏡区分欄)Dに含める	-	-
338	97.81	98.03	割れ目が著しく発達し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	割れ目が著しく発達し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	97.81	98.03	割れ目が著しく発達し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる。	・卓越を発達に変更し、文章の適正化を図った。	-	-	-	・上記にまとめで書きためたため記載しない	
339	98.02	98.27	短柱状~岩片状コア。割れ目に沿った劣化が顕著。	短柱状~岩片状コア。傾斜40~60°の割れ目に沿った劣化が顕著。	98.02	98.27	短柱状~岩片状コア。傾斜40~60°の割れ目に沿った劣化が顕著。	・コアに合わせて上端深度を変更した ・割れの傾斜について追記した。	98.02	98.27	98.02~98.27m:短柱状~岩片状コアからなる。傾斜40~60°の割れ目に沿った劣化が顕著である。	-	-
340	98.03	98.56	(コアの硬さ欄)Dランク	(コアの硬さ欄)Cランク	98.03	98.56	(コアの硬さ欄)Cランク	・コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した。	98.03	98.56	(コアの硬さ欄)Cランク	-	-
341	98.27	98.56	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)IVランク	98.27	98.56	(コアの形状欄)IVランク	・割れ目が少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した。	98.27	98.56	(コアの形状欄)IVランク	-	-
342	99.27	99.53	柱状~短柱状のコアとして採取されるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。	柱状~短柱状のコアとして採取されるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。	99.27	99.53	柱状~短柱状のコアとして採取されるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。	・柱状~短柱状のコアの上端深度をコアに合わせて変更した ・傾斜の修正(伏)の記載漏れ	99.27	99.53	99.27~99.53m:柱状~短柱状コアからなるが、密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。	-	-

H27-B-4 98.64~102.37m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>							
343	-	-	-	98.64	98.64	傾斜30°で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。	粘土の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	98.64	98.64	98.64m: 傾斜30°で幅5mm以下の灰白色粘土を挟む。	-	-	
344	-	-	-	98.70	98.74	マンガン濃集層	マンガン濃集層は周囲と異なる状況であるため追記した	98.70	98.74	98.70~98.74m: マンガンが濃集する。	-	-	
345	98.86	99.00	(コアの硬さ欄)Dランク	98.86	99.00	(コアの硬さ欄)Cランク	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	98.86	99.00	(コアの硬さ欄)Cランク	-	-	
346	98.86	108.44	(変質欄)3ランク	98.86	108.44	(変質欄)2ランク	変質の程度が軽いため変質のランクを2ランクに変更した	98.86	108.44	(変質欄)2ランク	-	-	
347	99.05	99.10	局所的に劣化が進み塊状となる。汚染も顕著。99.10m付近 輝沸石が明確に見られる。	99.05	99.10	局所的に劣化が進み塊状となる。酸化汚染も顕著。99.10m付近 輝沸石が多く見られる。傾斜50°で幅1.5cm程度が緑色化している。	・汚染の種類について追記した ・輝沸石はアルカリ性の熱水変質で晶出することが多く、数質サイトで見られる変質鉱物は輝沸石→中性のものが多いため、そのような環境で晶出する輝沸石の方が適切と判断して変更した。 ・文章の修正(明瞭→多く) ・緑色化は周囲と異なる状況であるため追記した	99.05	99.10	99.05~99.10m: 局所的に劣化が進み塊状となる。酸化汚染も顕著である。99.10m付近に輝沸石が多く見られる。傾斜50°で幅1.5cm程度が緑色化する。	-	-	
348	99.10	99.61	(コアの硬さ欄)Dランク	99.10	99.61	(コアの硬さ欄)Cランク	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	99.10	99.61	(コアの硬さ欄)Cランク	-	-	
349	99.53	101.30	(割れ目状態欄)2ランク	99.53	101.30	(割れ目状態欄)3ランク	挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクを3ランクに変更した	99.53	101.30	(割れ目状態欄)3ランク	-	-	
350	100.28	100.28	50°~55°の割れ目中に砂状の破砕物を厚さ2~4mm挟む。褐色汚染明確。	100.28	100.28	50°~45°の割れ目中に赤褐色の砂状の破砕物挟在物を厚さ1mmで不連続に挟む。褐色汚染明確。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ系統的な割れ目も存在しない。	・砂状部の色相を追記した ・該当深度の挟在物の幅に変更した ・割れ目周辺の岩壁の原岩組織の有無及び系統的な割れ目の有無について追記した ・追記した理由から破砕物ではないと判断して挟在物に変更した	100.28	100.28	100.28m、140.30m: 50°~55°で幅2~4mmの赤褐色の砂状挟在物を不連続に挟む。褐色汚染が明確である。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	記事内容が同じであるため、100.30mの深度も含めて記載した	-	
351	100.30	100.30	50°~55°の割れ目中に砂状の破砕物を厚さ2~4mm挟む。褐色汚染明確。	100.30	100.30	50°~55°の割れ目中に赤褐色の砂状の破砕物挟在物を厚さ4mmで不連続に挟む。褐色汚染明確。割れ目周辺の岩壁には原岩組織が認められ系統的な割れ目も存在しない。	・砂状部の色相を追記した ・該当深度の挟在物の幅に変更した ・割れ目周辺の岩壁の原岩組織の有無及び系統的な割れ目の有無について追記した ・追記した理由から破砕物ではないと判断して挟在物に変更した	-	-	-	-	上記にまとめ書きしたため記載しない	
352	100.44	100.58	(コアの形状欄)IVランク	100.44	100.58	(コアの形状欄)IIIランク	割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	100.44	100.58	(コアの形状欄)IIIランク	-	-	
353	100.45	100.45	25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな青色の変質鉱物が見られる。この鉱物は輝沸石ではないことから孔雀石ではなく、緑孔雀石の可能性が高い。	100.45	100.45	25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな緑色の変質鉱物(輝沸石)が見られる。この鉱物は輝沸石ではないことから孔雀石ではなく、緑孔雀石の可能性が高い。	・コアに合わせて鉱物の色を変更した ・孔雀石、緑孔雀石の生成には多量の銅元素が必要であるが、数質サイトの花崗岩類に多量の銅元素は含まれないため記載を削除した ・緑色鉱物は数質サイトで普遍的に見られる緑泥石による緑色化によるものと判断して緑泥石に変更した	100.45	100.45	100.45m: 25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな緑色の緑泥石が見られる。	-	-	
354	101.07	101.30	(コアの硬さ欄)Dランク (岩級区分欄)CL	101.07	101.30	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した 上記の変更に伴い、岩級を変更した	101.07	101.30	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	-	-	
355	101.24	101.30	(コアの形状欄)Vランク	101.24	101.30	(コアの形状欄)IVランク	割れ目は少ないためコアの形状のランクをIVランクに変更した	101.24	101.30	(コアの形状欄)IVランク	-	-	
356	101.30	101.43	(岩級区分欄)CL	101.30	101.43	(岩級区分欄)CM	区間長が50cm未満のため、周囲の岩壁に含めた	101.30	101.43	(岩級区分欄)CMに含める	-	-	
357	101.31	101.43	低角度を主体とした割れ目が集中。割れ目沿いの劣化も明確。一部局所的に塊状となる。	101.31	101.43	5~20°の低角度を主体とした割れ目が集中。割れ目沿いの劣化も明確。一部局所的に塊状となる。	割れ目の傾斜を具体的に追記した (傾斜の修正(主体とした)→主体とした)	101.31	101.43	101.31~101.43m: 5~20°の低角度を主体とした割れ目が密集する。割れ目沿いの劣化も明確で、一部局所的に塊状となる。	-	-	
358	-	-	-	101.34	101.34	傾斜51°で幅5~10mmの褐色砂状部を挟む。径2~5mmの岩片を含む。	・砂状部の挟在は周囲と異なる状況であるため追記した	101.34	101.34	101.34m: 傾斜51°で幅5~10mmの褐色砂状部を挟む。径2~5mmの岩片を含む。	-	-	
359	101.43	102.23	柱状~長柱状のコアが主体。岩質も堅硬である。	-	-	-	-	101.43	102.23	101.43~102.23m: 柱状~長柱状コアが主体で、岩質も堅硬である。	-	-	
360	102.23	102.37	割れ目がやや卓越。102.23m、102.25mは断続性の節理で、割れ目沿いの劣化が明確。	102.23	102.37	傾斜50°の割れ目がやや卓越。102.23m、102.25mはせん断性の節理で、割れ目沿いの劣化が明確。幅1~5mmの砂泥り黄褐色シルトを挟む。2本の割れ目の間及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	割れ目の傾斜を具体的に追記した ・黄褐色シルトの挟在は周囲と異なる状況であるため追記した ・せん断性節理に挟まれた区間及び周辺岩壁の原岩組織の有無及び系統的な割れ目の有無について追記した ・追記した理由からせん断性の節理ではないと判断して「せん断性の節理で」を削除した	102.23	102.37	102.23~102.37m: 傾斜50°の割れ目がやや卓越し、102.23m、102.25mは割れ目沿いの劣化が明確である。幅1~5mmの砂泥り黄褐色シルトを挟む。2本の割れ目の間及び周辺岩壁には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	
361	102.23	102.37	(割れ目状態欄)3ランク	102.23	102.37	(割れ目状態欄)2ランク	挟在物を伴うため割れ目状態のランクを2ランクに変更した	102.23	102.37	(割れ目状態欄)2ランク	-	-	

H27-B-4 102.23~106.92m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書注記図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
362	102.23	102.56	(岩級区分欄)CL	102.23	102.56	(岩級区分欄)CH	-	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	102.23	102.56	(岩級区分欄)CHに含める
363	102.37	102.89	(コアの硬さ欄)Cランク	102.37	102.89	(コアの硬さ欄)Bランク	-	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	102.37	102.89	(コアの硬さ欄)Bランク
364	102.56	103.37	(コアの形状欄)IVランク	102.56	103.37	(コアの形状欄)IIIランク	-	割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	102.56	103.37	(コアの形状欄)IIIランク
365	102.56	102.89	(岩級区分欄)CL	102.56	102.89	(岩級区分欄)CH	-	上記の変更に伴い、岩級を変更した	102.56	102.89	(岩級区分欄)CH
366	102.89	103.37	(岩級区分欄)CM	102.89	103.37	(岩級区分欄)CH	-	上記の変更に伴い、岩級を変更した	102.89	103.37	(岩級区分欄)CH
367	103.37	103.40	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク	103.37	103.40	(コアの硬さ欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク	-	コアはやや軟質で割れ目が発達するため、コアの硬さ、コアの形状のランクを変更した	103.37	103.40	(コアの硬さ欄)Dランク (コアの形状欄)Vランク
368	103.37	103.72	(割れ目状態欄)hランク	103.37	103.72	(割れ目状態欄)cランク	-	挟在物を伴うため割れ目状態のランクをcランクに変更した	103.37	103.72	(割れ目状態欄)cランク
369	103.40	103.55	(コアの硬さ欄)Cランク	103.40	103.55	(コアの硬さ欄)Dランク	-	コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	103.40	103.55	(コアの硬さ欄)Dランク
370	103.40	103.55	(岩級区分欄)CL	103.40	103.55	(岩級区分欄)CM	-	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	103.40	103.55	(岩級区分欄)CMに含める
371	103.40	103.55	高角度主体の複雑な割れ目が卓越する。	103.40	103.55	傾斜40~50°の割れ目の間に高角度の複雑な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。	-	複雑な割れ目について分布範囲などを追記した 卓越するほど多くはないため「分布する」に変更した マンガン汚染は周囲と同様な状態であるため追記した	103.40	103.55	103.40~103.55m:傾斜40~50°の割れ目の間に高角度の複雑な割れ目が分布する。割れ目に沿ったマンガン汚染が見られる。
372	103.55	103.72	(コアの硬さ欄)Bランク	103.55	103.72	(コアの硬さ欄)Cランク	-	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをCランクに変更した	103.55	103.72	(コアの硬さ欄)Cランク
373	104.03	104.17	50°~60°の剪断性の割れ目(節理)が卓越する。	104.03	104.17	50°~60°のせん断性の割れ目(節理)が卓越する。これとほぼ直交する割れ目は横断しているものが見られる。 割れ目沿いの細粒部は局所的に分布する。この区間及び周辺岩体には原岩組織が認められる。	-	表視の線一(せん断) 割れ目沿いの細粒部の連続性や原岩組織の有無について追記した 追記した理由からせん断性割れ目ではないと判断して「せん断性の」を削除した	104.03	104.17	104.03~104.17m:50~60°の割れ目が卓越し、これとほぼ直交する割れ目も横断するものが見られる。割れ目沿いの細粒部は局所的に分布する。この区間及び周辺岩体には原岩組織が認められる。
374	104.03	104.17	(割れ目状態欄)hランク	104.03	104.17	(割れ目状態欄)cランク	-	挟在物を伴うため割れ目状態のランクをcランクに変更した	104.03	104.17	(割れ目状態欄)cランク
375	104.03	104.17	(岩級区分欄)CL	104.03	104.17	(岩級区分欄)CM	-	区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた	104.03	104.17	(岩級区分欄)CMに含める
376	104.17	104.30	(コアの硬さ欄)Cランク	104.17	104.30	(コアの硬さ欄)Bランク	-	コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した	104.17	104.30	(コアの硬さ欄)Bランク
377	104.17	104.30	(コアの形状欄)IVランク	104.17	104.30	(コアの形状欄)IIIランク	-	割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	104.17	104.30	(コアの形状欄)IIIランク
378	104.17	104.67	(岩級区分欄)CL	104.17	104.67	(岩級区分欄)CM	-	上記のコアの硬さ、コアの形状、割れ目状態ランクの変更に伴い、深さ104.17~104.30m間がCH級、104.30~104.67m間がCM級となり、区間長が50cm未満となるため、CH級の区間は周囲の岩級に含めてCM級とした。	104.17	104.67	(岩級区分欄)CM
379	104.50	104.90	コアは斑状の褐色汚染が顕著である。	-	-	-	-	-	104.50~104.90m:斑状の褐色汚染が顕著である。	-	-
380	104.67	105.08	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	104.67	105.08	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-	割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した 上記の変更に伴い、岩級を変更した	104.67	105.08	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH
381	105.08	105.80	柱状コアが主体で岩質も堅硬。	-	-	-	-	-	105.08~105.80m:柱状コアが主体で岩質も堅硬である。	-	-
382	105.80	105.99	(コアの形状欄)IVランク	105.80	105.99	(コアの形状欄)IIIランク	-	割れ目が少ないためコアの形状のランクをIIIランクに変更した	105.80	105.99	(コアの形状欄)IIIランク
383	105.31	106.38	局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。	105.31	106.38	局所的に傾斜10~45°の割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。	-	割れ目の傾斜を具体的に追記した 表現の適正化(僅か⇒わずか)	105.31	106.38	105.31~106.38m:局所的に傾斜10~45°の割れ目が密集し、割れ目沿いの劣化もわずかに見られる。
384	105.37	107.47	(割れ目状態欄)cランク	105.37	107.47	(割れ目状態欄)hランク	-	挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをhランクに変更した	105.37	107.47	(割れ目状態欄)hランク
385	105.52	108.44	(岩級区分欄)CM	105.52	108.44	(岩級区分欄)CH	-	割れ目状態のランクをhランクに変更したことに伴い、岩級を変更した 一部、区間長が50cm未満のCM級を伴むが、周囲のCH級に含めた	105.52	108.44	(岩級区分欄)CHに含める
386	106.58	106.92	コアに斑状の褐色汚染が見られる。	-	-	-	-	-	106.58~106.92m:斑状の褐色汚染が見られる。	-	-

H27-B-4 106.87~110.05m

コア観察カード				適正化すべき記事内容				記事を削除・変更・追記した理由	報告書状況記事				コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	記事	上端深度	下端深度	記事	記事		上端深度	下端深度	記事	記事	
		コア観察カードから正しく転記されているか?	正しく転記されているか?										
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>										
387	106.87	106.87	30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂〜シルトが厚さ3mmで挟在する。	-	-	-	-		106.87	106.87	106.87m:30°で幅3mmの汚染されて褐色となった砂〜シルトを挟む。	-	
388	107.11	107.31	(コアの形状欄)IVランク	107.11	107.31	(コアの形状欄)IIランク	割れ目が存在しないためコアの形状のランクをIIランクに変更した		107.11	107.31	(コアの形状欄)IIランク	-	
389	107.47	108.34	異様な柱状コアが主体、割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが挟在物はほとんど見られない。	-	-	-	-		107.47	108.34	107.47~108.34m: 堅硬な柱状コアが主体で、割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが、挟在物はほとんど見られない。	-	
390	107.91	108.34	(コアの形状欄)IIIランク	107.91	108.34	(コアの形状欄)IIランク	割れ目が存在しないためコアの形状のランクをIIランクに変更した		107.91	108.34	(コアの形状欄)IIランク	-	
391	108.44	108.71	弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。	108.44	108.71	破砕部: 最新活動面は上端(最も直線的な面)	破砕部であるため、下記に詳細を追記した。 ・最新活動面の位置を追記した		108.44	108.71	●108.44~108.71m: 破砕部 108.44~108.63m: 粘土混じり硬状部(H) 上端52°で直線的に、下端45°で不明瞭に連続。径2~10mmの粘土化した岩片主体で、全体に軟質で灰白色を呈し、弱い粘状構造が見られる。 108.63~108.67m: 粘土質硬状部(H) 幅20mm程度、上端45°で不明瞭に、下端57°で漸移的に連続。径10mm以下の粘土化した岩片主体、全体に軟質。上位より変質し灰白色を呈する。含まれる細粒部は網目状で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。 108.67~108.71m: 硬質粘土状部(Hb) 褐色汚染が明瞭。褐色の軟質な基質に硬状部が点在する。幅35mm程度、上端57°で漸移的に、下端52°で境界は波打って連続。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は褐色汚染のため不明瞭。径10mm以下の岩片を含む。粘状構造が見られる。	・硬状部、境界面や細粒部の連続性、直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、柱状図には記載しない。	
392	-	-	-	108.44	108.63	粘土混じり硬状部(H) 上端52°で直線的に、下端45°で不明瞭に連続。径2~10mmの粘土化した岩片主体で、全体に軟質で灰白色を呈し、弱い粘状構造が見られる。含まれる細粒部は網目状で、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・破砕部内物質: 破砕度区分、上端下端境界、色調、内部構造、硬軟、細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織、真幅について追記した		108.44	108.71	108.63~108.67m: 粘土質硬状部(H) 幅20mm程度、上端45°で不明瞭に、下端57°で漸移的に連続。径10mm以下の粘土化した岩片主体、全体に軟質。上位より変質し灰白色を呈する。含まれる細粒部は網目状に分離し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	-	
393	-	-	-	108.63	108.67	粘土質硬状部(H) 幅20mm程度、上端45°で不明瞭に、下端57°で漸移的に連続。径10mm以下の粘土化した岩片主体、全体に軟質。上位より変質し灰白色を呈する。含まれる細粒部は網目状に分離し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・破砕部内物質: 破砕度区分、上端下端境界の傾斜及び直線性、内部構造、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織、真幅について追記した		108.44	108.71	108.67~108.71m: 硬質粘土状部(Hb) 褐色汚染が明瞭。褐色の軟質な基質に硬状部が点在する。幅35mm程度、上端57°で漸移的に、下端52°で境界は波打って連続。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は褐色汚染のため不明瞭。径10mm以下の岩片を含む。粘状構造が見られる。	-	
394	108.67	108.71	褐色汚染が明瞭。褐色の軟質な基質に硬状部が点在する。	108.67	108.71	硬質粘土状部(Hb) 褐色汚染が明瞭。褐色の軟質な基質に硬状部が点在する。幅35mm程度、上端57°で漸移的に、下端52°で境界は波打って連続。原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は褐色汚染のため不明瞭。径10mm以下の岩片を含む。粘状構造が見られる。	・上記に合わせて変更した		108.67	108.71	(破砕度区分)Hb	-	
395	108.67	108.71	(破砕度区分欄)H	108.67	108.71	(破砕度区分欄)Hb	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをEランクに変更した ・強く変質しているため変質のランクを4ランクに変更した		108.67	108.71	(コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク	-	
396	108.44	108.71	(コアの硬さ欄)Oランク (変質欄)3ランク	108.44	108.71	(コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク	・区間長が50cm未満のため、周囲の岩級に含めた		108.44	108.71	(コアの硬さ欄)Eランク (変質欄)4ランク	-	
397	108.44	108.71	(岩級区分欄)D	108.44	108.71	(岩級区分欄)DL	・2方向の割れ目の交差関係について追記した		108.44	108.71	(岩級区分欄)DLに含める	-	
398	108.71	109.79	割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。	108.71	109.79	傾斜40~60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。	・変質の程度が弱いため変質のランクを2ランクに変更した		108.71	109.79	108.71~109.79m: 傾斜40~60°の割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られ、やや脆弱である。	-	
399	108.71	108.90	2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。	108.71	108.90	直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。	・砂礫状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。		108.71	108.90	108.71~108.90m: 直交する2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。	-	
400	108.71	140.00	(変質欄)3ランク	108.71	140.00	(変質欄)2ランク	・粘土及びマンガンの挟在と柱状変質は周囲と異なる状況であるため追記した		108.71	140.00	(変質欄)2ランク	-	
401	-	-	-	108.90	109.03	砂礫状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。	・傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端傾斜1.5cm程度は柱状化し、たぶらに橙色に変色して原岩組織も不明瞭となる。		108.90	109.03	108.90~109.03m: 砂礫状を呈し、一部高角度割れ目に流入する。	-	
402	-	-	-	109.41	109.41	傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端傾斜1.5cm程度は柱状化し、たぶらに橙色に変色して原岩組織も不明瞭となる。	・傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し、灰白色を呈する。下端側の硬岩部との境界は明瞭。		109.41	109.41	109.41m: 傾斜48°で幅0.5mmの灰白色粘土とマンガンを挟む。下端傾斜1.5cm程度は柱状化し、たぶらに橙色に変色して原岩組織も不明瞭となる。	-	
403	-	-	-	109.76	109.79	傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し、灰白色を呈する。下端側の硬岩部との境界は明瞭。	・挟在物を伴う割れ目は少ないため割れ目状態のランクをEランクに変更した		109.76	109.79	109.76~109.79m: 傾斜50°の割れ目の間が幅3cm程度で変質し、灰白色を呈する。下端側の硬岩部との境界は明瞭である。	-	
404	109.79	110.03	(割れ目状態欄)cランク	109.79	110.03	(割れ目状態欄)bランク	・コアは硬質であるためコアの硬さのランクをBランクに変更した		109.79	110.03	(割れ目状態欄)bランク	-	
405	109.89	110.05	(コアの硬さ欄)Oランク	109.89	110.05	(コアの硬さ欄)Bランク			109.89	110.05	(コアの硬さ欄)Bランク	-	

H27-B-4 109.79~120.10m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書主状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
405	110.03	110.78			微細な割れ目が集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している。	109.79	110.78	微細な割れ目が集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している。			
407	-	-				109.79	110.38	傾斜80°程度の割れ目が複数分布する。			
408	110.68	110.78	(コアの硬さ欄)Bランク		(コアの硬さ欄)Cランク	110.68	110.78	(コアの硬さ欄)Cランク			
409	110.68	110.78	(岩級区分欄)CL		(岩級区分欄)CM	110.68	110.78	(岩級区分欄)CMに含める			
410	111.07	111.12	(コアの硬さ欄)Cランク		(コアの硬さ欄)Bランク	111.07	111.12	(コアの硬さ欄)Bランク			
411	111.12	111.22	(コアの形状欄)IVランク		(コアの形状欄)Vランク	111.12	111.22	(コアの形状欄)Vランク			
412	-	-			傾斜80~90°程度の割れ目が複数分布する。	111.22	111.59	傾斜80~90°程度の割れ目が複数分布する。			
413	111.57	111.57			付近、局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に着色している。	-	-				
414	111.79	112.82	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM		(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	111.79	112.82	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH			
415	112.84	113.03	高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色染が認められる。		傾斜60~80°の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色染が認められる。	112.84	113.03	傾斜60~80°の高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが、挟在物は無く、弱い褐色染が認められる。			
416	113.41	113.54	割れ目がやや卓越する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5~30mm軟質、脆弱となる。		微細な割れ目がやや卓越する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5~30mm軟質、脆弱となる。	113.41	113.54	113.4~113.54m:微細な割れ目がやや卓越する。113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ、幅5~30mmが軟質、脆弱となる。			
417	113.41	113.54	(岩級区分欄)CL		(岩級区分欄)CM	113.41	113.54	(岩級区分欄)CMに含める			
418	114.42	114.57	(コアの形状欄)IVランク		(コアの形状欄)IIIランク	114.42	114.57	(コアの形状欄)IIIランク			
419	114.57	114.76	割れ目が卓越する。114.60~114.66m、この間40°程度の平行した割れ目が密集。114.73m付近は塊~岩片状となる。		割れ目が卓越する。114.60~114.66m、この間40°程度の平行した割れ目が密集。114.73m付近は塊~岩片状となる。	114.57	114.76	114.57~114.76m:割れ目が卓越する。114.60~114.66m間は40°程度の平行した割れ目が密集する。114.73m付近は塊~岩片状となる。			
420	114.57	114.76	(岩級区分欄)CL		(岩級区分欄)CM	114.57	114.76	(岩級区分欄)CMに含める			
421	115.40	115.54	115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が顕著。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。		115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が顕著。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。	115.40	115.54	115.40~115.54m:115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が顕著である。黄鉄鉱を中心とした褐色化が顕著に見られる。			
422	116.11	116.52	(岩級区分欄)CM		(岩級区分欄)CH	116.11	116.52	(岩級区分欄)CHに含める			
423	116.30	116.30	57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の挟在物が見られる。			-	-				
424	116.52	119.32	柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる。			-	-				
425	117.83	117.83	50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)。割れ目の周囲には輝沸石が生じている。		50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)。割れ目の周囲には輝沸石が生じている。	117.83	117.83	117.83m:50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、緑泥石化により、やや緑色味を帯びる。割れ目の周囲には輝沸石が生じている。			
426	119.00	120.00	(RQD欄)32		(RQD欄)30	119.00	120.00	(RQD欄)30			
427	119.65	119.83	割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が顕著で、一部の割れ目面には砂~シルト状の挟在物が見られる。		割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が顕著で、一部の割れ目面には砂~シルト状の挟在物が見られる。	119.65	119.83	119.65~119.83m:割れ目がやや卓越する。割れ目面にはマンガン及び褐色の汚染が顕著で、一部は砂~シルト状の挟在物が見られる。			
428	119.65	120.10	(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL		(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	119.65	120.10	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM			

H27-B-4 120.05~125.37m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>						
429	-	120.10	~120.10m 割れ目に沿って変質が見られ、幅2~4mm軟質となる。	120.05	120.05	傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。		120.05	120.05	120.05m、120.07m:傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。	-記事内容が同じであるため、120.07mの深度も含めて記載した。
430	-	-	-	120.07	120.07	傾斜40°で幅2~4mmの灰白色粘土を挟む。		-	-	-	-上記にまとめ書きしたため記載しない
431	120.31	120.31	付近、65°の平行的な割れ目が集中。砂~礫状の挟在物が見られる。	120.31	120.31	付近、35°の平行的な割れ目が集中。砂~礫状の挟在物が見られる。マンガンを挟む。		120.31	120.31	120.31m付近、35°の平行的な割れ目が密集し、マンガンを挟む。	
432	120.40	120.40	58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質層と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。	120.40	120.40	40°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質層と厚さ2mmで褐色化が顕著に見られる。		120.40	120.40	120.40m、40°の比較的シャープな割れ目に緑灰色の変質層と厚さ2mmの褐色化が顕著に見られる。	
433	120.40	122.54	堅硬な柱~長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	-	-	-		120.40	122.54	120.40~122.54m:堅硬な柱~長柱状コアからなる。褐色汚染が見られる割れ目が多い。	
434	120.67	120.69	(コアの形状欄)IIランク	120.67	120.69	(コアの形状欄)IIランク		120.67	120.69	(コアの形状欄)IIランク	
435	121.16	121.32	(コアの形状欄)IIランク	121.16	121.32	(コアの形状欄)IIランク		121.16	121.32	(コアの形状欄)IIランク	
436	121.60	121.60	割れ目の一部が脆弱で細粒状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。	121.60	121.60	傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細粒状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。		121.60	121.60	121.60m:傾斜50°の割れ目沿いの一部が脆弱で細粒状となる。白色のシルト状の挟在物が見られる。	
437	121.60	121.74	(岩級区分欄)CM	121.60	121.74	(岩級区分欄)CH		121.60	121.74	(岩級区分欄)CHIに含める	
438	122.46	122.46	割れ目の周囲が変質により緑色味を及ぼす。薄層石が散在し、褐色汚染顕著。	122.46	122.46	傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色味を帯びる。絹雲母が散在し、褐色汚染顕著。		122.46	122.46	122.46m:傾斜50°の割れ目の周囲が変質により緑色味を帯びる。絹雲母が散在し、褐色汚染も顕著である。	
439	122.54	122.78	(岩級区分欄)CL	122.54	122.78	(岩級区分欄)CM		122.54	122.78	(岩級区分欄)CMIに含める	
440	122.54	123.84	顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。	-	-	-		122.54	123.84	22.54~123.84m:顕在化した割れ目の他、微細な割れ目が多い。	
441	122.78	123.00	(割れ目状態欄)bランク	122.78	123.00	(割れ目状態欄)bランク		122.78	123.00	割れ目状態欄)bランク	
442	123.00	123.26	高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガンが挟まる。割れ目が集中し脆弱である。	123.00	123.26	高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガンが挟まる。割れ目が集中し脆弱である。		123.00	123.26	123.00~123.26m:高角度の割れ目に幅1~6mmのマンガンを挟む。割れ目が密集し脆弱である。	
443	123.00	123.26	(岩級区分欄)CL	123.00	123.26	(岩級区分欄)CM		123.00	123.26	(岩級区分欄)CMIに含める	
444	-	-	-	123.15	123.15	傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度で褐色化している。		123.15	123.15	123.15m:傾斜45°で幅1mm以下の灰白色粘土を不連続に挟む。周辺は幅3mm程度で褐色化する。	
445	123.15	124.30	(割れ目状態欄)bランク	123.15	124.30	(割れ目状態欄)bランク		123.15	124.30	(割れ目状態欄)bランク	
446	123.85	123.85	60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が挟在する。	-	-	-		123.85	123.85	123.85m:60°で幅3mmの褐色に汚染された砂を挟む。	
447	124.09	-	柱状コアが主体となり、岩質も硬い。~124.30mまでは割れ目に挟在物が見られる。	124.09	125.20	柱状コアが主体となり、岩質も硬い。~124.30mまでは割れ目に挟在物が見られる。		124.09	125.20	124.09~125.20m:柱状コアが主体となり、岩質も硬い。	
448	124.09	124.61	(コアの形状欄)IIランク	124.09	124.61	(コアの形状欄)IIランク		124.09	124.61	(コアの形状欄)IIランク	
449	124.09	124.30	(岩級区分欄)CM	124.09	124.30	(岩級区分欄)CH		124.09	124.30	(岩級区分欄)CHIに含める	
450	124.61	124.77	(コアの形状欄)IIランク	124.61	124.77	(コアの形状欄)IVランク		124.61	124.77	(コアの形状欄)IVランク	
451	125.20	125.37	(岩級区分欄)CM	125.20	125.37	(岩級区分欄)CH		125.20	125.37	(岩級区分欄)CHIに含める	
452	125.37	125.37	付近、局所的に微細な割れ目が集中する。	-	-	-		125.37	125.37	125.37m付近、局所的に微細な割れ目が密集する。	

H27-B-4 126.34~133.59m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
453	126.34	126.69	柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき断層)に沿って褐色汚染。汚染はコア全体に及ぶ。	126.34	126.69	柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき断層)に沿って褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。			126.34~126.69m:柱状コアであるが、褐色汚染が見られる。汚染はコア全体に及ぶ。	
454	126.34	126.69	(岩級区分欄)CH	126.34	126.69	(岩級区分欄)CM			126.34 126.69 (岩級区分欄)CMに含める	
455	127.00	127.83	不規則で微細な割れ目が卓越。	127.00	127.83	不規則で微細な割れ目が発達。			127.00~127.83m:不規則で微細な割れ目が発達する。	
456	127.06	127.30	軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある。	-	-	-			127.06~127.30m:軟質でコア表面はザラつく。変質により割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある。	
457	-	-	-	127.19	127.22	傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘土。一部赤褐色粘土を挟む。			127.19~127.22m:傾斜62°で幅0~10mm程度で局所的に灰白色粘土。一部赤褐色粘土を挟む。	
458	127.60	127.83	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CL	127.60	127.83	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM			127.60 127.83 (コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	
459	128.26	128.76	微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。	128.26	128.76	微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。			128.26~128.76m:微細な割れ目が多く、割れ目沿いに褐色汚染が見られる。	
460	128.76	128.90	(岩級区分欄)CM	128.76	128.90	(岩級区分欄)CL			128.76 128.90 (岩級区分欄)CLに含める	
461	128.90	129.15	割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。	128.90	129.15	一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。			128.90~129.15m:一部の傾斜30~45°の割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。	
462	129.52	130.08	(割れ目状態欄)IIランク	129.52	130.08	(割れ目状態欄)IIランク			129.52 130.08 (割れ目状態欄)IIランク	
463	129.52	129.84	(コアの形状欄)IIランク	129.52	129.84	(コアの形状欄)IIランク			129.52 129.84 (コアの形状欄)IIランク	
464	-	-	-	129.98	130.50	傾斜60°程度の割れ目が複数分布する。			129.98~130.50m:傾斜60°程度の割れ目が複数分布する。	
465	129.94	130.08	(岩級区分欄)CL	129.94	130.08	(岩級区分欄)CM			129.94 130.08 (岩級区分欄)CM	
466	130.02	130.42	高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部礫状となる。	130.02	130.42	80°の高角度の割れ目が見られ、その割れ目沿いに劣化。一部礫状となる。			130.02~130.42m:80°の高角度の割れ目が見られ、割れ目沿いに劣化し、一部礫状となる。	
467	130.08	130.42	(岩級区分欄)CL	130.08	130.42	(岩級区分欄)CM			130.08 130.42 (岩級区分欄)CMに含める	
468	130.84	130.84	付近、交差する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。	130.84	130.84	付近、交差する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。			130.84m付近、交差する割れ目に挟まれた区間が局所的に劣化し、礫状となる。	
469	131.54	131.64	コアの半分が劣化し礫状となる。	131.54	131.64	コアの半分が劣化し礫状となる。			131.54~131.64m:コアの半分が劣化し礫状となる。	
470	131.54	131.64	(コアの硬さ欄)Cランク (コアの形状欄)IVランク (割れ目状態欄)IIランク (岩級区分欄)CL	131.54	131.64	(コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IIIランク (割れ目状態欄)Iランク (岩級区分欄)CH			131.54 131.64 (コアの硬さ欄)Bランク (コアの形状欄)IIIランク (割れ目状態欄)Iランク (岩級区分欄)CH	
471	131.75	131.83	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	131.75	131.83	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH			131.75 131.83 (コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	
472	131.75	132.14	(岩級区分欄)CM	131.83	132.14	(岩級区分欄)CH			131.83 132.14 (岩級区分欄)CHに含める	
473	132.14	132.67	堅硬な柱状コア。	132.14	132.67	堅硬な柱状コア。			132.14~132.67m:堅硬な柱状コアからなる。	
474	-	-	-	132.31	132.31	傾斜25°、幅1~2mmの石英脈を挟む。			132.31m:傾斜25°で幅1~2mmの石英脈を挟む。	
475	-	-	-	132.67	132.67	傾斜82°の割れ目が分布。			132.67m:傾斜82°の割れ目が分布する。	
476	132.67	133.59	(岩級区分欄)CM	132.67	133.59	(岩級区分欄)CH			132.67 133.59 (岩級区分欄)CHに含める	

H27-B-4 132.87~136.22m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事の削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
477	132.87	132.87	60°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。	132.87	132.87	40°の割れ目にマンガンが厚さ3mmで挟在する。	132.87	132.87	132.87m:45°で幅3mmのマンガンを含む。	
478	132.99	133.09	(割れ目状態欄)αランク	132.99	133.09	(割れ目状態欄)βランク	132.99	133.09	(割れ目状態欄)βランク	
479	133.12	133.90	(コアの形状欄)Ⅱランク	133.12	133.90	(コアの形状欄)Ⅲランク	133.12	133.90	(コアの形状欄)Ⅲランク	
480	133.26	133.26	割れ目間が隙状となり、隙には褐色の細粒物が付着する。	133.24	133.29	傾斜40~50°の割れ目間が隙状となり、隙には褐色の細粒物が付着する。	133.24	133.29	133.24~133.29m:傾斜40~50°の割れ目間が隙状となり、隙には褐色の細粒物が付着する。	
481	-	-	-	133.90	133.90	傾斜72°の割れ目に沿って褐色化が顕著。	133.90	133.90	133.90m:傾斜72°の割れ目沿いに褐色化が顕著に見られる。	
482	133.90	134.12	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	133.90	134.12	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	133.90	134.12	(コアの形状欄)Ⅱランク (岩級区分欄)CH	
483	134.02	134.50	強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	-	-	-	134.02	134.50	134.02~134.50m:強い褐色汚染がコア全体に及ぶ。	
484	134.30	135.01	(コアの形状欄)Ⅳランク (岩級区分欄)CM	134.30	135.01	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	134.30	135.01	(コアの形状欄)Ⅲランク (岩級区分欄)CH	
485	134.50	134.74	コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ないが、珪化し、原岩以上に硬い。	134.50	134.74	コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ないが、珪化し、原岩以上に硬い。	134.50	134.74	134.50~134.74m:コアはやや青味を帯びる。風化の影響は少ない。	
486	134.78	134.78	付近、黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に及ぶ。	134.78	134.78	付近、黄鉄鉱が分解過程の白鉄鉱が少量見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に及ぶ。	134.78	134.78	134.78m付近、黄鉄鉱が見られ、その周辺には褐色汚染が狭い範囲に見られる。	
487	135.28	135.60	この間の低角度割れ目は2~3本の割れ目が2~4m程度の距離で平行に挿在している。岩質は硬い。	135.28	135.60	この間の傾斜25°前後の割れ目は2~3本の割れ目が2~10cm程度の間隔で平行に挿在している。岩質は硬い。	135.28	135.60	135.28~135.60m:傾斜25°前後の2~3本の割れ目が2~10cm程度の間隔で平行に挿在する。岩質は硬い。	
488	135.60	135.76	(コアの形状欄)Ⅳランク	135.60	135.76	(コアの形状欄)Ⅲランク	135.60	135.76	(コアの形状欄)Ⅱランク	
489	136.00	136.20	高角度の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目やや発達する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物が見られるものがある。	136.00	136.22	傾斜90°の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目やや発達する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物が見られるものがある。	136.00	136.22	136.00~136.22m:傾斜90°の割れ目が見られ、低角度の割れ目と交叉し、割れ目やや発達する。割れ目にはマンガンに汚染された挟在物が見られるものがある。	
490	136.00	136.30	(岩級区分欄)CL	136.00	136.30	(岩級区分欄)CM	136.00	136.30	(岩級区分欄)CMに含める	
491	136.10	136.30	(コアの硬さ欄)βランク	136.10	136.30	(コアの硬さ欄)βランク	136.10	136.30	(コアの硬さ欄)βランク	
492	136.22	136.30	(コアの形状欄)Ⅳランク	136.22	136.30	(コアの形状欄)Ⅳランク	136.22	136.30	(コアの形状欄)Ⅳランク	
493	136.22	136.64	(割れ目状態欄)αランク	136.22	136.64	(割れ目状態欄)βランク	136.22	136.64	(割れ目状態欄)βランク	
494	136.34	136.34	38°の割れ目に沿って暗緑色味を帯びた変質部(緑泥石化作用)が見られ、その中に小さな緑雲母が散在し、幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	136.04	136.04	38°の割れ目に沿って幅1cm程度暗緑色味を帯びた変質部(緑泥石化作用)が見られ、その中に小さな緑雲母が散在し、幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	136.04	136.04	136.04m:38°の割れ目に沿って幅1cm程度暗緑色味を帯びた変質部(緑泥石化作用)が見られ、その中に小さな緑雲母が散在し、幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。	
495	-	-	-	136.10	136.10	傾斜60°で幅2mmのマンガンを含む。周辺は幅1cm程度で珪化し珪色している。	136.10	136.10	136.10m:傾斜60°で幅2mmのマンガンを含む。周辺は幅1cm程度で珪化し珪色している。	
496	-	-	-	136.21	136.22	傾斜25°程度の2条に分岐した割れ目に幅1~3mmのマンガンを含む。	136.21	136.22	136.21~136.22m:傾斜25°程度の2条に分岐した割れ目に幅1~3mmのマンガンを含む。	

H27-B-4 136.50~139.90m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事の削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
497	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Cランク (岩級区分欄)CL	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	136.50	136.64	(コアの硬さ欄)Bランク (岩級区分欄)CM	-
498	136.61	136.61	局所的(5~15mm幅)に割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。	136.61	136.61	局所的(5~15mm幅)に傾斜30~40°の割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。	136.61	136.61	136.61m:幅5~15mmで局所的に傾斜30~40°の割れ目が密集し、マンガンの汚染が見られる。	-
499	136.64	137.02	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	136.64	137.02	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	136.64	137.02	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
500	137.02	138.59	堅硬な柱状コア 微細でほぼ平行した割れ目が非常に多い。	-	-	微細でほぼ平行した50°程度の割れ目が非常に多い。幅2~3mmの灰黄色粘土を挟む。	138.01	138.16	138.01~138.16m:微細でほぼ平行した50°程度の割れ目が非常に多い。幅2~3mmの灰黄色粘土を挟む。	-
501	138.01	138.16	(岩級区分欄)CL	138.01	138.16	(岩級区分欄)CM	138.01	138.16	(岩級区分欄)CMに含める	-
502	138.01	138.47	巾10mmで平行した割れ目が非常に多い。	138.01	138.47	傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	138.01	138.47	(岩級区分欄)CMに含める	-
503	138.29	138.29	巾10mmで平行した割れ目が非常に多い。	138.28	138.29	傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	138.28	138.29	138.28~138.29m:傾斜70°程度の微細な割れ目が非常に多い。	-
504	138.29	138.47	(割れ目状態欄)cランク (岩級区分欄)CL	138.29	138.47	(割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CM	138.29	138.47	(割れ目状態欄)bランク (岩級区分欄)CM	-
505	139.00	139.47	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	139.00	139.47	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	139.00	139.47	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	-
506	139.47	139.72	(岩級区分欄)CM	139.47	139.72	(岩級区分欄)CL	139.47	139.72	(岩級区分欄)CLに含める	-
507	-	-	-	139.50	139.90	傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	139.50	139.90	139.50~139.90m:傾斜70°程度の微細な割れ目が多い。	-
508	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Cランク	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Bランク	139.72	140.00	(コアの硬さ欄)Bランク	-
509	139.90	139.90	70°のシャープな角断性の節理。巾10mmの砂状とマンガンの挟在物が見られる。上端側には平行な割れ目が3条見られる。	139.90	139.90	70°のシャープなせん断性の節理。幅10mmの砂状とマンガンの挟在物が見られる。上端側には平行な割れ目が3条見られる。挟在物内の鉱物粒子に定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が認められる。	139.90	139.90	139.90m:70°のシャープな割れ目に幅10mmの砂状とマンガンの挟在物が見られる。上端側には平行な割れ目が3条見られる。挟在物内の鉱物粒子に定向配列は見られない。周辺岩盤には原岩組織が認められる。	-
510	140.00	140.00	核尺	140.00	140.00	核尺	-	-	-	-

余白

H24-D1-5

H24-D1-5 0.00~8.48m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度		
		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「」で表示)					
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
1	-		盛土	・表裏の統一(盛土) ・人工堆積物の区間を追記した	0.00	7.41	0.00~7.41m:盛土	
2	0.00	3.00	粗砂 ルーズな粗砂からなる埋戻し土。1m以下でφ10~40mmのG6岩片、コンクリート片などを含む。	・表裏の統一(0.00) ・掘削の修正(φ19mm) ・人工堆積物の地質名の記載を削除した ・コアに合わせて着目層を変更した ・1m以下にも径10~20mm程度の礫が見られるため、「1m以下」を削除した	0.00	3.00	0.00~3.00m:粗砂 ルーズな粗砂からなる。径10~40mmの花崗斑岩、黒色砂岩などの礫を含む。	
3	0.00	3.00	(地質名欄)粗砂	・表裏の統一(盛土)	0.00	3.00	(地質名欄)盛土	
4	3.00	7.41	砂礫 砂礫からなる改良土で、粗砂の基質は比較的よく残っている。7.00~7.20mはルーズな均質な中砂。φ2~5mmの石英粒、長石粒とφ5~120mmのG6主体の礫で、少量のG6、鉄石片を含む。礫は硬質主体で一部半クラリで、菱角礫~菱円礫である。礫含有率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と低下している。	・人工堆積物の地質名の記載を削除した ・砂石を岩礫名に変更した	3.00	7.41	3.00~7.41m:砂礫 砂礫からなる。径2~3mmの石英粒、長石粒と径5~120mmの花崗斑岩の礫主体で、少量の黒雲母花崗岩、黒色砂岩を含む。硬質礫主体の菱角~菱円礫で、一部半クラリ礫を含む。礫率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と低下している。	
5	3.00	7.41	(地質名欄)砂礫	・表裏の統一(盛土)	3.00	7.41	(地質名欄)盛土	
6	7.41	7.41	層岩		-	-		・下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はない
7	-	-	φ1~10mm石英、長石の斑晶からなる花崗斑岩(G6)	・地質名及び区間深度を追記した ・言われる範囲の含有量及びアプライト様を呈する区間を追記した ・19m以下は斑晶の量が少なくアプライト様を呈する部分もある	7.41	54.00	7.41~54.00m:花崗斑岩 径1~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。19m以下は斑晶の量が少なくアプライト様を呈する部分もある。	
8	7.41	8.51	風化で著しく軟化するが、岩組織はほぼ残存し、割れ目は一部は消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。長石斑晶は全て粘土化で白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土礫は殆ど分布しない。割れ目は30~50°主体で、割れ目周辺5~10mmは褐色化することが多い。	・上端のモルタル付着について追記した ・表裏の適正化(取捨化、原岩組織、注記) ・掘削の修正(幅)の記載を削除した	7.41	8.51	7.41~8.51m:風化で著しく軟化するが、原岩組織はほぼ残存し、割れ目は一部で消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目周辺の幅5~10mmが褐色化することが多い。長石斑晶は粘土化して白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土礫は殆ど分布しない。上端には幅1cm程度のモルタルが付着する。	
9	7.45	7.45	40°割れ目はせん断性割れ目。交差する53°幅2mmの石英脈を切っている(変位量5mm石ズレ)	・せん断性割れ目が石英粒を横断しているように見えるため「切っている」を「交差している」に変更し、変位量についての記載を削除した ・割れ目及び層岩の状況について追記した ・上記を追記した層岩からせん断性割れ目ではないと判断してせん断性割れ目を削除した	7.45	7.45	7.45m:傾斜40°の割れ目は、交差する傾斜53°で幅2mmの石英脈を止めている。割れ目には挟き物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
10	-	-	傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で褐色化している。	・マンガンと称する割れ目は層岩と異なる状態であるため追記した	7.89	7.89	7.89m:傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で褐色化する。	
11	-	-	マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。	・マンガン汚染は層岩と異なる状態であるため追記した	8.03	8.08	8.03~8.08m:マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。	
12	8.48	8.48	45°で幅5~10mmが緑灰色化(緑泥石化)。粘土化は伴わない。	・表裏の適正化(併用)	8.48	8.48	8.48m:傾斜45°で幅5~10mmが緑泥石化により緑灰色化する。粘土化は伴わない。	

H24-D1-5 8.51~10.21m

コア観察カード		適正化すべき記事内容		記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
上端深度	下端深度	上端深度	下端深度		上端深度	下端深度	
記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「J」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事を削除・変更・追記した理由	選定した記事内容		
8.51	8.71	8.51	8.71		8.51	8.71	
13	8.51	8.71	破砕帯	破砕帯	破砕帯	●8.51~8.71m:破砕帯 8.51~8.66m:粘土混じり岩片状部(H) 上端65°でほぼ直線的にシヤープに。下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する径1~2mmの軟質な淡黄色(2.5Y8/3)粘土層からなり粘土混じり岩片状を呈する。8.51~8.54mは粘土量が増えている。色調は淡黄~にぶい黄(7.5Y6/4)で、厚さは140mm(コア長)	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や繊維部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
14	8.51	8.66	Hb 上端55°、下端50°で、上端はほぼ直線的でシヤープに。下端はやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する径1~2mmの軟質な淡黄色(2.5Y8/3)粘土層からなり粘土混じり岩片状を呈する。8.51~8.54mは粘土量が増えている。色調は淡黄~にぶい黄(7.5Y6/4)で、厚さは140mm(コア長)	Hb 上端55°、下端50°で、上端はほぼ直線的でシヤープに。下端はやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の繊維が消滅した軟質化~粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する径1~2mmの軟質な淡黄色(2.5Y8/3)粘土層からなり粘土混じり岩片状を呈する。8.51~8.54mは粘土量が増えている。色調は淡黄~にぶい黄(7.5Y6/4)で、厚さは140mm(コア長)	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・硬軟ではないため削除した ・表裏の適正化(ほぼ、やや、波打ち、繊維⇒原岩組織、軟質化、軟弱⇒軟質) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ)		
15	8.66	8.69	Hb 上端50°、下端60°で、上端はやや不明瞭に。下端はやや波打って連続。径2~3mm石英粒と径5mm前後の粘土化したGe岩片からなる軟質なにぶい黄橙(10YR7/3)色の硬質粘土で、厚さは25~30mm。	Hb 上端50°、下端60°で、上端はやや不明瞭に。下端はやや波打って連続。径2~3mm石英粒と径5mm前後の粘土化したGe岩片からなる軟質なにぶい黄橙(10YR7/3)色の硬質粘土で、厚さは25~30mm。	・硬主体であるため破砕帯内物質の名称を変更した ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表裏の適正化(やや、軟弱⇒軟質)		
16	8.69	8.70	He-1(主せん断面・8.70m) 上端60°、下端60°で、両者とやや波打って連続する。φ1mm以下の砕屑を少量含む。軟質な明赤灰(2.5YR7/2)粘土。厚さ3~8mm。	He-1(最新活動面・8.70m)(最も直線的な面) 上端60°、下端60°で、上端はやや波打り、下端は直線的に連続。φ1mm以下の砕屑を少量含む。軟質な明赤灰(2.5YR7/2)粘土。厚さ3~8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・最新活動面の直線性を追記した ・下層境界を上層境界に比べて明確に直線的であるため下層境界の直線性を変更した。 ・表裏の適正化(軟弱⇒軟質) ・傾記の修正(「色」の記載漏れ) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した		
17	8.70	8.71	Hb 上端60°、下端65°で、上端はやや波打って。下端はほぼ直線的でシヤープに連続する。φ1~2mmの石英粒とφ3~5mmの粘土化したGe岩片からなる軟質なにぶい黄橙(10YR7/2)を呈する硬質粘土。厚さは3~10mm。	Hb 上端60°、下端65°で、上端は直線的に。下端はほぼ直線的でシヤープに連続する。φ1~2mmの石英粒とφ3~5mmの粘土化したGe岩片からなる軟質なにぶい黄橙(10YR7/2)を呈する粘土質硬状部。厚さは3~10mm。 含まれる繊維部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬主体であるため破砕帯内物質の名称を変更した ・He-1の下層境界の直線性の変更に伴い、上層境界の直線性を変更した。 ・繊維部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表裏の適正化(ほぼ、軟弱⇒軟質)		
18	8.71	10.19	軟しく軟質化し、岩層組織は一部で残存するが、割れ目は大半が消滅している。8.50~8.80mでは30~40°とこれに斜交~直交する50~70°割れ目の一部が残存している。	軟しく軟質化し、岩層組織は一部で残存するが、割れ目は大半が消滅している。9.50~10.19mでは30~40°とこれに斜交~直交する50~70°割れ目の一部が残存している。	・コアに合わせた割れ目が残存している区間を変更した ・表裏の適正化(軟質化、原岩組織)		
19	10.19	10.21	破砕帯(H-3d破砕帯)	破砕帯(H-3d破砕帯)	用語の統一(破砕帯→硬砕帯) 破砕帯名は評価のため削除した		
20	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端36°で、上端は直線的でシヤープに。下端はやや波打って連続。φ1~3mm石英粒とφ3mm前後の粘土化したGe岩片を含む硬質粘土で、粘土は灰白色を呈し軟弱である。厚さは16~10mm。	Hb 上端27°、下端36°で、上端は直線的でシヤープに。下端はやや波打って連続。φ1~3mm石英粒とφ3mm前後の粘土化したGe岩片を含む硬質粘土で、粘土は灰白色を呈し軟弱である。厚さは16~10mm。 含まれる繊維部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	・硬主体であるため破砕帯内物質の名称を変更した ・繊維部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した ・表裏の適正化(やや、軟弱⇒軟質)	●10.19~10.21m:破砕帯 10.19~10.20m:粘土質硬状部(Hb) 上端27°で直線的にシヤープに。下層36°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質、灰白色を呈する。幅6~10mm。 10.20~10.21m:粘土状部(Hc-1) 上端36°でやや波打って、下層40°で直線的にシヤープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質、灰白~上部側でにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。	
21	10.20	10.21	He-1(主せん断面・10.21m) 上端36°、下層40°で、上端は波打って。下層は直線的でシヤープに連続する。下層が主せん断面である。φ1mm前後の石英粒と若干含む灰白(2.5Y8/2)~上部側のにぶい黄(2.5Y6/3)の軟質な粘土である。厚さは4~8mm。	He-1(最新活動面・10.21m) 上層36°、下層40°で、上端はやや波打り、下層は直線的でシヤープに連続する。下層が主せん断面である。φ1mm前後の石英粒を若干含む灰白(2.5Y8/2)~上部側のにぶい黄(2.5Y6/3)の軟質な粘土である。厚さは4~8mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	・最新活動面という用語に統一 ・上層境界の性状を上層側の下層境界の性状に合わせて変更した ・見出しに最新活動面の深度を記載しているため「下層が主せん断面である」を削除した。 ・表裏の適正化(軟弱⇒軟質) ・原岩組織が認められる岩片を主体とし、基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した		

H24-D1-5 10.21~14.19m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	報告書柱状図記事			記事を削除・変更・追記した理由	コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事		上端深度	下端深度	記事				
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				適正化すべき記事内容				
22	10.21	10.45	著しく軟化する硬さが主体で、消滅した割れ目が多いが、60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残存し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。10.37m~65°割れ目以降では色が上位のいぶい橙から橙に変化し、岩片も硬さの多くなり、粘土脈は分布しなくなる。10.37m~65°割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	10.21	10.45	著しく軟化する硬さが主体で、消滅した割れ目が多いが、60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残存し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。10.37m~65°割れ目以降では色が上位のいぶい橙から橙に変化し、岩片も硬さの多くなり、粘土脈は分布しなくなる。10.37m~65°割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	10.21	10.45	10.21~10.45m:消滅した割れ目が多いが、傾斜60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残存し、幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。 10.37m:傾斜65°の割れ目を境に色調がいぶい橙から橙色に変わり、岩片も硬さDが多くなり、粘土脈は分布しなくなる。割れ目には幅0.5~1mmの軟質な白色粘土脈を挟み、上端側幅約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない			
23	10.45	10.50	破砕帯(H-4'破砕帯)	10.45	10.50	破砕帯(H-4'破砕帯)	10.45	10.50	●10.45~10.50m:破砕帯 10.45m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30°で直線的にシャープに連続する幅mm以下の軟質な白色粘土。 10.45~10.50m:粘土質破砕帯(Hb) 上端90°で直線的にシャープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mmを主体とし、φ5~10mm~長さ10~20mm、幅1~10mmの扁平化したGp脈を多く含む軟質な機質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~いぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	破砕帯(H-4'破砕帯) 破砕帯名は詳細であるため削除した	破砕帯(H-4'破砕帯) 破砕帯名は詳細であるため削除した	破砕帯(H-4'破砕帯) 破砕帯名は詳細であるため削除した	機軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の育層、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
24	10.45	10.45	Hc-1(主せん断面) 30°で直線的にシャープに連続する厚さ1mm以下の軟質な白色粘土で主せん断面である。	10.45	10.45	Hc-1(最新活動面) 30°で直線的にシャープに連続する厚さ1mm以下の軟質な白色粘土。主せん断面である。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。	10.45	10.45	●10.45~10.50m:破砕帯 10.45m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30°で直線的にシャープに連続する幅mm以下の軟質な白色粘土。 10.45~10.50m:粘土質破砕帯(Hb) 上端90°で直線的にシャープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mmを主体とし、φ5~10mm~長さ10~20mm、幅1~10mmの扁平化したGp脈を多く含む軟質な機質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~いぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	最新活動面という用語に統一 見出しに最新活動面の深度を記載しているため削除した 表現の適正化(軟弱⇒軟質) 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	最新活動面という用語に統一 見出しに最新活動面の深度を記載しているため削除した 表現の適正化(軟弱⇒軟質) 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	機軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の育層、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。	
25	10.45	10.50	Hb 上端90°、下端40°で、上端は直線的にシャープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mmを主体とし、φ5~10mm~長さ10~20mm、幅1~10mmの扁平化したGp脈を多く含む軟質な機質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~いぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	10.45	10.50	Hb 上端90°、下端40°で、上端は直線的にシャープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mmを主体とし、φ5~10mm~長さ10~20mm、幅1~10mmの扁平化したGp脈を多く含む軟質な機質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~いぶい橙色(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	10.45	10.50	機主体であるため破砕帯内物質の名称を変更した φ0.5~10mmと幅5~10mmはほぼ同じ意味合いで記載が重複しているため削除した 表現の適正化(軟弱⇒軟質) 細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	機主体であるため破砕帯内物質の名称を変更した φ0.5~10mmと幅5~10mmはほぼ同じ意味合いで記載が重複しているため削除した 表現の適正化(軟弱⇒軟質) 細粒部の連続性・直線性、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織について追記した	機軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の育層、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。		
26	10.50	10.98	(コアの形状欄)Vランク	10.50	10.98	(コアの形状欄)Vランク	10.50	10.98	(コアの形状欄)Vランク	(コアの形状欄)Vランクに変更した	(コアの形状欄)Vランク	-	
27	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Dランク	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Dランク	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Dランク	コアはやや軟質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	(コアの硬さ欄)Dランク	-	
28	10.51	12.00	硬さDで軟質であるが原岩組織と割れ目は明確に残留している。割れ目は40~60°がほぼ平行に分布する(破砕帯と同方向)。割れ目はいぶい橙状化し、幅0.5mm前後の白色軟質粘土脈を挟むことが多い。	10.50	12.00	硬さDでやや軟質であるが原岩組織と割れ目は明確に残留している。割れ目は40~60°がほぼ平行に分布する(破砕帯と同方向)。割れ目はいぶい橙状化し、幅0.5mm前後の白色軟質粘土脈を挟むことが多い。	10.50	12.00	10.50~12.00m:原岩組織と割れ目は明確に残留する。傾斜40~60°の割れ目が破砕帯とほぼ平行に分布する。割れ目沿いに砂状化し、幅0.5mm前後の軟質な白色粘土脈を挟むことが多い。	破砕帯の下端が10.50mであり1cmの隙間を空ける理由がないため上端深度を変更した コアに合わせて硬軟を変更した 表現の適正化(原岩組織、ぼぼ、挟む、沿い、軟弱⇒軟質)	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
29	10.98	11.20	(コアの形状欄)Vランク	10.98	11.20	(コアの形状欄)Vランク	10.98	11.20	(コアの形状欄)Vランク	割れ目が局所的に多いためコアの形状のランクをVランクに変更した	(コアの形状欄)Vランク	-	
30	11.02	11.20	(コアの硬さ欄)Dランク	11.02	11.20	(コアの硬さ欄)Dランク	11.02	11.20	(コアの硬さ欄)Dランク	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	(コアの硬さ欄)Dランク	-	
31	11.63	12.00	(コアの硬さ欄)Dランク	11.63	12.00	(コアの硬さ欄)Dランク	11.63	12.00	(コアの硬さ欄)Dランク	コアはやや硬質であるためコアの硬さのランクをDランクに変更した	(コアの硬さ欄)Dランク	-	
32	11.90	11.95	45~50°割れ目それぞれにマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	11.10	11.95	11.10~11.11m、11.90~11.95mに45~50°割れ目沿いにマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	11.10	11.95	11.10~11.11mにもマンガン鉱染が見られるため追記した 表現の適正化(沿い)	11.10~11.11m、11.90~11.95m:傾斜45~50°の割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
33	12.00	12.61	50~60°が数本分布するのみである。たゞし、不規則に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目そのものの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	12.00	12.61	50~60°の割れ目が数本分布するのみである。たゞし、不規則に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目沿いの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	12.00	12.61	12.00~12.61m:傾斜50~60°の割れ目が数本分布するのみであるが不規則に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目沿いの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	割れの修正(「割れ目」、「径」の記載漏れ) 表現の適正化(たゞし、沿い)	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		
34	12.18	12.61	(割れ目状態欄)bランク	12.18	12.61	(割れ目状態欄)bランク	12.18	12.61	(割れ目状態欄)bランク	灰在物を伴う割れ目が少ないため割れ目状態のランクをbランクに変更した	(割れ目状態欄)bランク	-	
35	12.61	14.19	40~60°割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°割れ目も多し。13.86~14.19mには傾斜80~85°の2本の割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化~φ5~10mm細片化する。粘土脈は挟まない。	12.61	14.19	40~60°割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°割れ目も多し。13.86~14.19mには傾斜80~85°の2本の割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化~φ5~10mm細片化する。粘土脈は挟まない。	12.61	14.19	12.61~14.19m:傾斜40~60°の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°の割れ目も多し。13.86~14.19mには傾斜80~85°の2本の割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化~φ5~10mm細片化する。粘土脈は挟まない。	機軟の適正化(挟む)	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない		

H24-D1-5 14.19~18.78m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事を削除・変更・追記した理由	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容	
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
36	14.19	16.18	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。割れ目は酸化で褐色化するが、砂や粘土などの挟入物はない。割れ目は50°以下が多い。15.53~15.92mは風化で表面が褐色化(にぶい褐色・7.5YR5/3)するが、底層で劣化はない。15.40~15.65mに10~30°の、15.10~15.40mに85~90°のいずれも低密着割れ目が分布する。	-	-	-	14.19	16.18	14.19~16.18m:割れ目は傾斜50°以下が多く、割れ目は酸化で褐色化するが、砂や粘土などの挟入物はない。15.53~15.92mは風化で表面が褐色化するが、劣化はない。15.40~15.65mに傾斜10~30°の、15.10~15.40mに傾斜85~90°の低密着割れ目が分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さ、割れ目の多寡、色調の情報は記載しない
37	14.19	14.72	(割れ目状態欄)IIランク (岩級区分欄)CH	14.19	14.72	(割れ目状態欄)IIランク (岩級区分欄)CM	14.19	14.72	(割れ目状態欄)cランク (岩級区分欄)CM	-
38	15.00	15.30	(コアの形状欄)IIランク	15.00	15.30	(コアの形状欄)IIランク	15.00	15.30	(コアの形状欄)IIランク	-
39	15.53	15.92	(色調欄)7.5YR5/1褐色	15.53	15.92	(色調欄)7.5YR5/3にぶい褐色	15.53	15.92	(色調欄)にぶい褐色	-
40	15.70	15.92	(コアの形状欄)IIランク	15.70	15.92	(コアの形状欄)IIランク	15.70	15.92	(コアの形状欄)IIランク	-
41	16.18	16.72	上位より若干風化が進み、割れ目ぞいの一部やコア表面の一部が砂状化する。50~60°割れ目が主体である。粘土層は挟まない。	16.18	16.72	上位より若干風化が進み、割れ目ぞいの一部やコア表面の一部が砂状化する。50~60°割れ目が主体である。粘土層は挟まない。	16.18	16.72	16.18~16.72m:上位より若干風化が進み、割れ目ぞいの一部やコア表面の一部が砂状化する。傾斜50~60°の割れ目が主体である。粘土層は挟まない。	-
42	16.18	16.72	(割れ目状態欄)IIランク	16.18	16.72	(割れ目状態欄)bランク	16.18	16.72	(割れ目状態欄)bランク	-
43	16.18	17.14	(岩級区分欄)CL	16.18	17.14	(岩級区分欄)CM	16.18	17.14	(岩級区分欄)CM	-
44	16.72	17.14	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。40~50°割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいの砂状化はなく、粘土層も挟まない。17.07m・50°幅1~2mmでやや湾曲しながら石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmと微細な金属鉱物が露出している。	16.72	17.14	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。40~50°割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいの砂状化はなく、粘土層も挟まない。17.07m・50°幅1~2mmでやや湾曲しながら石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmと微細な金属鉱物が露出している。	16.72	17.14	16.72~17.14m:傾斜40~50°の割れ目が平行に分布し、割れ目ぞいの砂状化はなく、粘土層も挟まない。17.07mに傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmの微細な金属鉱物が露出する。	記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多寡の情報は記載しない
45	17.14	18.17	上位より若干風化が進み、割れ目の一部が砂状化~φ3mm前後で細片化する。粘土層の挟入は少ない。割れ目は30~50°が主体で一部でこれらに斜交~直交する50~70°割れ目も分布する。18.05~18.09m、割れ目の褐色化進む。	-	-	-	17.14	18.17	17.14~18.17m:上位より若干風化が進み、割れ目の一部が砂状化~径3mm前後で細片化する。粘土層の挟入は少ない。傾斜30~50°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目も分布する。18.05~18.09m間は割れ目の褐色化が進む。	-
46	18.17	18.64	風化で軟質化している。割れ目は一部で消滅するが、40~50°割れ目~低密着割れ目の一部が残留している。割れ目の一部は砂状化~φ5mm前後に細片化する。粘土層は18.28m・35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他割れ目には分布しない。	18.17	18.64	風化で軟質化している。割れ目は一部で消滅するが、40~50°割れ目~低密着割れ目の一部が残留している。割れ目の一部は砂状化~φ5mm前後に細片化する。粘土層は18.28m・35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他割れ目には分布しない。	18.17	18.64	18.17~18.64m:風化で軟質化する。割れ目は一部で消滅するが、傾斜40~50°の割れ目や低密着割れ目の一部が残留する。割れ目の一部は砂状化~径5mm前後に細片化する。粘土層は18.28mの傾斜35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他の割れ目には分布しない。	-
47	18.64	18.78	18.72m・35°、幅3~4mmの軟質な灰赤色(2.5YR6/2)粘土層が直線的でシャープに連続。その上下端側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土層が平行に分布し、全体が著しく軟化している。	18.64	18.78	18.72m・35°、幅3~4mmの軟質な灰赤色(2.5YR6/2)粘土層が直線的でシャープに連続。その上下端側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土層が平行に分布し、全体が著しく軟化している。	18.64	18.78	18.64~18.78m:18.72mに傾斜35°で幅3~4mmの軟質な灰赤色粘土層が直線的でシャープに連続する。その上下端側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土層が平行に分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない

H24-D1-5 18.78~21.81m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それと変更点)		
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	選定した記事内容			
上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			
48	18.78	19.11	風化で軟質化している。風化で、割れ目の一部は消滅するが、40~60°の割れ目と低密着割れ目が残存する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土部は分布せず、粘土脈もはさまれない。	18.78	19.11	風化で軟質化している。風化で、割れ目の一部は消滅するが、40~60°の割れ目と低密着割れ目が残存する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土部は分布せず、粘土脈もはさまれない。	18.78	19.11	18.78~19.11m:風化で軟質化し、割れ目の一部は消滅するが、傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が残存する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土部は分布せず、粘土脈もはさまれない。18.90~19.03m間は崩道よりやや硬質である。	-		
49	18.90	19.03	硬さCの岩片が分布する。	-	-	-	-	-	-	-	上記の記事に含めたため記載しない	
50	19.11	20.10	40~60°の割れ目が主体で、一部でこれらに10~30°で斜交し直交する。19.67m以上は硬さC、19.67m以下は硬さBと堅硬となる。硬さBも含め、割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は分布しない。	-	-	-	-	-	19.11~20.10m:傾斜40~60°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交し直交する10~30°の割れ目が見られる。割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土部や粘土脈は分布しない。	19.11	20.10	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
51	19.56	19.67	最大径φ25mm石英、φ20mm長石などからなるペグマタイト質層で、幅約100mm、65°で分布。	19.56	19.67	最大径φ25mm石英、φ20mmカリ石などからなるペグマタイト質層で、幅約100mm、65°で分布。	-	-	19.56~19.67m:ペグマタイト傾斜65°で幅約100mm、最大径25mmの石英、径20mmのカリ石などからなる。	19.56	19.67	コアに合わせて鉱物名を変更した。ペグマタイトであるため「質層」は削除した。
52	19.66	19.66	58°はせん断性割れ目で、交差する10°割れ目を切り(変位量2mm左ズレ)、ペグマタイトの石英脈を切断している。	19.66	19.66	58°のせん断性割れ目は連続せず、交差する10°割れ目を横断している。石英脈は変位量2mm左ズレ、ペグマタイトの石英脈を切断している。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	19.66m:傾斜58°の割れ目は連続せず、交差する傾斜10°の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	19.66	19.66	58°の割れ目は連続しない。また、10°の割れ目が横断しているため「切り」及び、変位量の記載は削除した。 石英脈の切断は見られない。 割れ目及び周辺の状況について追記した。 「割れ目及び周辺の状況よりせん断性ではないと判断して「せん断性」を削除した。
53	19.97	19.97	80°、幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-	-	-	19.97m:傾斜80°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	19.97	19.97	-
54	20.10	20.46	40~60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の挟在は殆んどない。	-	-	-	-	-	20.10~20.46m:傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の挟在は殆んどない。	20.10	20.46	-
55	20.11	20.11	60°割れ目はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	-	-	-	-	-	20.11m:傾斜60°の割れ目はマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	20.11	20.11	-
56	20.46	20.85	一部に硬さBの硬硬部も含むが、硬さCが主体。50~60°の割れ目主体で、割れ目そのものの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟質な白色~淡黄色(2.9Y7/3)粘土脈をはさまることが多い。	20.46	20.85	一部に硬さBの硬硬部も含むが、硬さCが主体。50~60°の割れ目主体で、割れ目そのものの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟質な白色~淡黄色(2.9Y7/3)粘土脈を挟むことが多い。	-	-	20.46~20.85m:一部に硬質部を含むが、全体にやや硬質である。傾斜50~60°の割れ目が主体で、割れ目沿いの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟質な白色~淡黄色の粘土脈を挟むことが多い。	20.46	20.85	表現の適正化(色、軟弱⇒軟質、挟む)
57	20.65	20.80	20.65m~20.80m間の割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	-	-	-	-	20.65m~20.80m:割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	20.65	20.80	-
58	20.85	21.43	硬さBで堅硬。20~30°とこれに斜交する50~60°の割れ目が主体で、一部で間隔の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが劣化なし。割れ目挟在物は無い。	20.85	21.43	硬さBで堅硬。20~30°とこれに斜交する50~60°の割れ目が主体で、一部で間隔の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが劣化なし。割れ目挟在物は無い。	-	-	20.85~21.43m:傾斜20~30°とこれに斜交する50~60°の割れ目が主体で、一部で間隔の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが、劣化はない。割れ目の挟在物も見られない。	20.85	21.43	表現の適正化(同角⇒同内角)
59	21.06	21.15	21.06m・30°と21.15m・50°の各割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化。	-	-	-	-	-	21.06m・30°と21.15m・50°の各割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	21.06	21.15	-
60	21.33	21.33	60°はせん断性割れ目で、交差する20°割れ目を切っている(変位量8mm右ズレ)	21.33	21.33	60°のせん断性割れ目は、交差する20°割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断している。砂状化している軟質部(幅0.5mm)を含む。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-	-	21.33m:傾斜60°の割れ目は、交差する傾斜20°の割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断する。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	21.33	21.33	20°割れ目は60°割れ目を横断している。また、21.36mの褐色化した割れ目を横断しているため「切っている」及び変位量の記載を削除した。 割れ目及び周辺の状況について追記した。 「割れ目及び周辺の状況よりせん断性ではないと判断して「せん断性」を削除した。
61	21.43	21.50	20~30°と50~60°の割れ目が5~10mm間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの白色軟質粘土がわずかに付着する。	21.43	21.50	20~30°と50~60°の割れ目が5~10mm間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの白色軟質粘土がわずかに付着する。	-	-	21.43~21.50m:傾斜20~30°と50~60°の割れ目が5~10mm間隔で交差し全体が軟質化する。幅0.5mmの軟質な白色粘土がわずかに付着する。	21.43	21.50	表現の適正化(軟質化、軟弱⇒軟質)
62	21.43	21.50	(割れ目状鉄層)Ⅰランク (コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Ⅱランク (風化欄)Ⅱランク	21.43	21.50	(割れ目状鉄層)Ⅰランク (コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Ⅱランク (風化欄)Ⅱランク	-	-	(割れ目状鉄層)Ⅰランク (コアの形状欄)Ⅳランク (コアの硬さ欄)Ⅱランク (風化欄)Ⅱランク	21.43	21.50	区間長が10cm未満であるため箇条のランクに含めた。
63	21.50	21.81	割れ目なくわずかに低密着割れ目を含む。	-	-	-	-	-	21.50~21.81m:わずかに低密着割れ目が分布する。	21.50	21.81	-
64	21.50	21.81	(コアの形状欄)Ⅲランク	21.50	21.81	(コアの形状欄)Ⅲランク	-	-	(コアの形状欄)Ⅲランク	21.50	21.81	記事欄の記載に合わせて変更した。

H24-D1-5 21.81~24.47m

コア観察カード			適正化すべき記事内容			記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)	報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点)
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示)		上端深度	下端深度	記事	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由	上端深度	下端深度	記事	記事を削除・変更・追記した理由
21.81	22.43	10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体。22.10m~10°ではごく薄く砂状化。22.36m~50°には幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	21.81	22.43	10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体。22.10m~10°ではごく薄く砂状化。22.36m~50°には幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	・表現の適正化(軟弱⇒軟質)	21.81	22.43	21.81~22.43m:傾斜10~40°とこれに斜交する40~60°の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70°の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50°の割れ目には幅1~2mmの軟質な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	-
-	-	-	22.28	22.28	傾斜80°で幅2~3mmのかり長石の濃集部が顕状に分布。	・かり長石の濃集部は周囲と異なる状況であるため追記した。	22.28	22.28	22.28m:傾斜80°で幅2~3mmのかり長石の濃集部が分布する。	-
22.43	22.91	45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。	-	-	-	-	22.43	22.91	22.43~22.91m:傾斜45°前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20°の割れ目と低密着割れ目が分布する。	-
22.43	22.91	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CH	22.43	22.91	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	・下位と比べて割れ目が多いためコアの形状のランクをIVランクに変更した ・コアの形状のランクの変更に伴い、岩級を変更した	22.43	22.91	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	-
22.52	22.55	15~20°割れ目ぞいゆる10mm前後で細片化。	22.52	22.55	15~20°割れ目ぞいゆる10mm前後で細片化。	・表現の適正化(泡い)	22.52	22.55	22.52~22.55m:傾斜15~20°の割れ目沿いが径10mm前後で細片化する。	-
22.56	22.56	58°幅1mmと英層が母岩に密着して連続する。	-	-	-	-	22.56	22.56	22.56m:傾斜58°で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-
22.81	22.91	割れ目、低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。	22.81	22.91	割れ目、低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。	・表現の適正化(挟む)	22.81	22.91	22.81~22.91m:割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。	-
22.91	22.94	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)CH	22.91	22.94	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)CM	・区間長が10cm未満であるため周囲のランクに含めた	22.91	22.94	(割れ目状態欄)Bランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク (岩級区分欄)CM	-
22.91	22.94	50~55°割れ目に囲まれ幅20mmが風化で砂状~細片状化。粘土は殆んど含まない(わずかに幅1mm・長さ20mmで軟質な白色粘土が分布)	22.91	22.94	50~55°割れ目に囲まれ幅20mmが風化で砂状~細片状化。粘土は殆んど含まない(わずかに幅1mm・長さ20mmで軟質な白色粘土が分布)	・表現の適正化(軟弱⇒軟質 細片状化⇒細片化) ・文章の適正化(「殆んど含まない」と「わずかに...分布」は同義であるため、前者を削除した)	22.91	22.94	22.91~22.94m:傾斜50~55°の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm・長さ20mmの軟質な白色粘土が分布する。	-
23.94	23.60	堅硬で割れ目が少ない(固)。20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目からなり、割れ目挟在物はない。	22.94	23.60	堅硬で割れ目が少ない(固)。20~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目挟在物はない。	・傾斜の修正(23.94⇒22.94) ・表現の適正化(ほぼ) ・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する)	22.94	23.60	22.94~23.60m:傾斜30~30°とこれにほぼ直交する50~60°の割れ目が分布し、割れ目の挟在物はない。	・記事欄に外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
23.45	-	23.45m以深はコア表面は風化でにぶい褐色を帯びる。	23.45	-	23.45m以深はコア表面は風化で細状ににぶい褐色を帯びる。	・表現の適正化(⇒は) ・細状に褐色化している旨を追記した	23.45	-	23.45m以深はコア表面は風化で細状ににぶい褐色を帯びる。	-
23.60	23.96	全体が風化でにぶい褐色を帯びるが、劣化はない。30~45°とこれに斜交~直交する50°の割れ目からなる。 (以下は24m以深のコアで書き加える)	23.60	23.96	全体が風化でにぶい褐色を帯びるが、劣化はない。30~45°とこれに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。 (以下は24m以深のコアで書き加える)	・文章の適正化(割れ目からなる⇒割れ目が分布する) ・「(以下は24m以深のコアで書き加える)」は不要な記載であるため削除した	23.60	23.96	23.60~23.96m:傾斜30~45°と、これに斜交~直交する50°の割れ目が分布する。	・風化による褐色化は上記で記載しているため記載しない
23.96	24.47	割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに40~50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟在物は分布しない。	-	-	-	-	23.96	24.47	23.96~24.47m:割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに傾斜40~50°の割れ目が計3本見られる。割れ目に挟在物は分布しない。	-